

研究者総覧 2017



新潟国際情報大学の「研究者総覧」(2017) について

本学は、平成6年に「国際化、情報化が進む現代社会に貢献する人材の育成」を目的に設立されました。そして本年開学24年目を迎えました。比較的歴史の浅い本学ですが、幸いこの間輩出した多くの卒業生は、地元新潟を中心に活躍しており、建学の目的に沿って着実に歴史を積み重ねて参りました。

本学では20周年を期に学部学科、教育課程の見直しなど、更にこの目的を果たすべく改革を行い、2014年より2学部制に移行し国際学部を新設いたしました。国際化に適切に対応出来る人材育成を一層充実させるため英語専門コースの新設などを図りましたほか、情報化に対応する人材育成を引き続き担う情報文化学部でも情報システムの作成のみに止まらず、それを有効に使いこなせる人材育成に一層力を入れるべく経営学分野のコース等の充実にも取り組むことにしたところです。

こうした新たな教育理念を実現するため、本学ではそれに相応しい教員とサポートする職員が集まって、力を併せて大学の目的であります教育、研究および地域貢献に注力しています。国際学部には米国、中国、韓国、ロシア等外国出身の教員も多く、それぞれの言語教育に携わっています。情報文化学部（情報システム学科）では企業出身の教員が多く、企業内で即役立つ実践的な情報システム教育に当たっています。国際化と情報化という時代潮流として最も重要なテーマを対象に、時代変化にも対応した人材育成に特化することで、実践的でかつ特徴ある教育・研究に努めています。

また地域貢献として10周年を機に新潟市内の中心部にあります中央キャンパスに設置した「エクステンションセンター」で市民の皆様には生涯学習の講座を提供してきており、教員も講師を務めています。


この「研究者総覧」はこうした本学の教員について、研究内容等と併せ広く知って頂き、その知的財産としての知識、研究成果を地域で有効に活用されますことを願ってまとめたものです。本総覧により本学学生はじめ大学を目指す高校生、企業、行政機関、他大学、教育関係者等幅広い方々に本学教員を知って頂き、この地域で多方面で活用のお場を与えられますことを願っております。

ここに総覧を皆様にお送りし、本学教育研究者をご紹介します。そしてこの総覧がこうした初期の目的・役割を十分に果たすことを強く願っております。

2017年4月

新潟国際情報大学 学長 平山征夫

凡例

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	氏名 ○○○○ ○○○○ ○○○○○○ 性別 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 生年月日 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 職名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 連絡方法 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 学歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 職位 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 職歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 受賞歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 研究分野 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 主要業績 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 所属学会 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ その他 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

収録内容

平成29年4月1日現在で本学に在職する専任の教員（教授、准教授、講師）を収録した。

掲載順

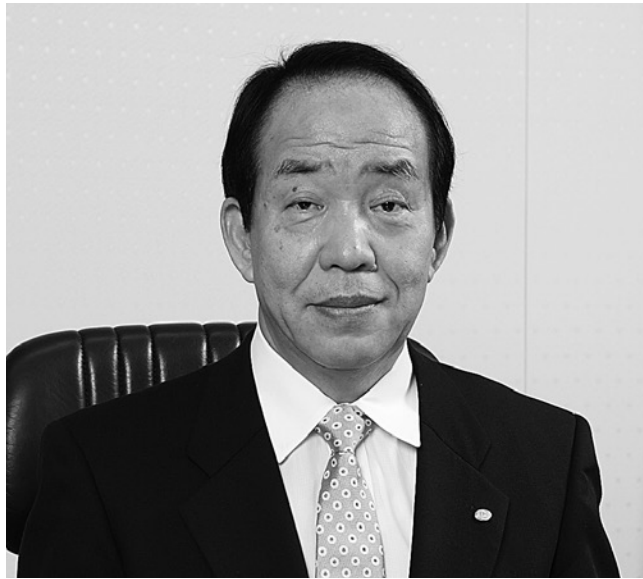
学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し、その所属ごとに教授、准教授、講師の順とした。

掲載事項

- 氏名 フリガナ ローマ字を付記。
- 性別 男・女の別を記載。
- 生年月日 西暦で記載。
- 職名 現在の職名及び（ ）書きで就任年月を記載。
- 連絡方法 Eメール（電子メール）アドレスを記載。
- 学歴 大学等及び大学院を記載。なお、大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。
- 学位 学位名、授与大学名、取得年月を記載。
- 職歴 職名、在職期間を併記。（間近の経歴を含む。）
- 受賞歴 主要な学術に関する受賞状況について、賞の名称、受賞年月を記載。
- 研究分野 現在の研究テーマについて記載。
- 主要業績 過去に発行した著書・学術論文のうちから主なものをその題名、発行年月、誌名・発行所を記載。
- 所属学会 主なものを記載。
- その他 所属する委員会や研究会等、特記すべき事項を記載。

目 次

学長	6
情報文化学部 情報システム学科	9
宇田 隆幸	11
内田 亨	12
上西園 武良	13
岸野 清孝	14
桑原 悟	15
小林 満男	16
近藤 進	17
白井 健二	18
高木 義和	19
近山 英輔	20
西山 茂	21
藤瀬 武彦	22
藤田 晴啓	23
阿部 聡	24
石井 忠夫	25
石川 洋	26
伊村 知子	27
小宮山 智志	28
佐々木 桐子	29
藤田 美幸	30
山下 功	31
河原 和好	32
中田 豊久	33
国際学部 国際文化学科	35
白井 陽一郎	37
區 建英	38
越智 敏夫	39
小山田 紀子	40
佐々木 寛	41
澤口 晋一	42
申 銀珠	43
アレクサンドル プラーソル	44
矢口 裕子	45
吉澤 文寿	46
安藤 潤	47
神長 英輔	48
熊谷 卓	49
瀬戸 裕之	50
藤本 直生	51
小林 伊織	52
佐藤 若菜	53
山田 裕史	54
ジュリアス マルティネス	55
シンシア スミス	56
佐藤 泰子	57



学 長

氏 名	ヒラヤマ イクオ 平山 征夫	HIRAYAMA Ikuo
性 別	男	
生 年 月 日	1944年7月21日	
職 名	学長 (2008年4月)	
連 絡 方 法	E-mail : hirayama@nuis.ac.jp	
学 歴	1967年 横浜国立大学経済学部経済学科卒業	
職 歴	1967年 4月 日本銀行入行	
	1985年11月 // 総務局広報課長	
	1987年 7月 // 電算情報局総務課長	
	1988年 5月 // 新潟支店長	
	1992年 5月 // 仙台支店長	
	1992年10月 新潟県知事就任	
	1996年10月 // 再任	
	2000年10月 // 三選	
	2004年10月 // 退任	
	2005年 4月 国立大学法人・長岡技術科学大学特任教授就任	
	2008年 3月 // 退任	
	2008年 4月 新潟国際情報大学学長就任	

受賞歴	旭日重光章（2014年11月）
研究分野	<p>実践から見た地域経営・地域政策 地方自治の課題とあり方 企業の社会的役割など実践的企業論 組織の安全管理の課題 地域経済としての産業・地域金融 原子力発電等エネルギー立地論 地球環境と共生問題 東アジア（特に北東アジア経済圏問題）経済論 資本主義論 –これらテーマについて、行政の首長経験を踏まえた実践的な有効な政策立案 を目指した研究を志向</p>
主要業績	<p>著書</p> <p>①「私はこんな知事になりたかった」（朝日新聞出版社） ②「平成大合併 新潟県の軌跡」（共著）（社・新潟県自治研修センター 新潟日報事業社）など</p>
その他	ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所名誉博士

情報文化学部 情報システム学科

宇田 隆幸

内田 亨

上西園 武良

岸野 清孝

桑原 悟

小林 満男

近藤 進

白井 健二

高木 義和

近山 英輔

西山 茂

藤瀬 武彦

藤田 晴啓

阿部 聡

石井 忠夫

石川 洋

伊村 知子

小宮山 智志

佐々木 桐子

藤田 美幸

山下 功

河原 和好

中田 豊久





氏名	ウダ タカユキ 宇田 隆幸 UDA Takayuki
性別	男
生年月日	1961年8月2日
職名	教授 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : uda@nuis.ac.jp
学歴	学部課程：図書館情報大学 (卒業) 修士課程：図書館情報大学 (修了) 博士課程：筑波大学 (中退)、東北大学 (修了)
学位	博士 (情報科学)、東北大学、2009年9月
職歴	【常勤、正規】 株式会社日本総合研究所 (システム開発職) (9年)、株式会社ジョイン・システム開発 (代表取締役) (9年)、アラン株式会社 (CTO、システム開発事業部長) (13ヶ月)、株式会社ネオジェイエスケー (取締役) (5年)、学校法人岩崎学園 (教職員) (2年)、学校法人近畿大学 (工業高専教授) (6年) 【非常勤】 田園調布学園大学社会福祉学部社会福祉学科 (非常勤講師) (3年)、国立東京工業高等専門学校情報工学科 (非常勤講師) (3年)
受賞歴	図書館情報大学学長 (兼 筑波大学学長) より研究成績優秀 (修了生首席総代) により賞状授与 (2004年3月)
研究分野 主要業績	知識処理 (人工知能、自然言語処理、Webマイニング) ① 名張市民意識調査アンケートの分析、2014年。 ② 名張商工会議所における貸室管理システムについての分析報告、2014年。 ③ 名張市民意識調査アンケートの分析、2013年。 ④ “擬似投票方式に基づくハイブリッドフィルタリングシステムにおける推薦予測精度の改良” (査読論文) (共著)、情報処理学会論文誌、Vol.51, No.2, pp.542-554、2010年。 ⑤ “擬似投票方式に基づくハイブリッド型情報推薦システムに関する研究” (博士論文)、東北大学、2009年。 ⑥ “情報フィルタリングの利用システム”、情報の科学と技術 Vol.56, No.10, pp.458-463、2006年。 ⑦ “Improvement of Pseudo-voting method in Recommender Systems”、Proc. 1st. Int. Workshop on Information Credibility on the Web (WISCOW07), JSAI, pp.41-48、2007年。 ⑧ “テキスト情報を対象としたハイブリッド型情報推薦システムにおける擬似投票方式”、情報処理学会論文誌 Vol.45, No.5, pp.1246-1255、2005年。 ⑨ 情報推薦方式 (特許 20046281)、2004年。 ⑩ シニア世代におけるWWWコミュニティ利用促進に関する研究報告、2002年。 ⑪ ゴルフ場予約システム (楽天GORA) 開発、1999年。 ⑫ CDMA基地局研究・開発、1996年。 ⑬ VAN NP 通信プロトコルコンバータ開発、1989年。 ⑭ ファームバンキング用通信プロトコル策定およびシステム設計・開発、1984年。 ⑮ 情報入力装置 (特許 昭58-237125)、1983年。
所属学会	情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本教育工学会、日本データベース学会、ACM
その他	公益財団法人図書館振興財団 大学図書館用選書事業 選書員



氏名	ウチダ トオル 内田 亨 UCHIDA Toru
性別	男
生年月日	1961年6月6日
職名	教授 (2012年4月)
連絡方法	E-mail : uchida@nuis.ac.jp
学歴	1985年3月中央大学文学部文学科英米文学専攻卒業 1999年4月～1999年6月リヨン経営大学MBA交換留学 2000年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際経営学 (MBA) 修了 2000年6月～2000年7月リヨン経営大学MBA交換留学 2000年9月～2001年6月ブリュッセル自由大学医学部交換留学 2004年9月～2005年6月リヨン第1大学医学部公衆衛生学講座交換留学 2007年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学博士課程修了
学位	博士 (学術、早稲田大学、2007年6月) 経営学修士 (MBA、早稲田大学、2000年3月)
職歴	1985年4月～1990年7月ライオン株式会社薬品事業部大阪本店営業課課員 1990年8月～1993年7月ライオン歯科材株式会社大阪本店販売促進課課員 1994年3月～1995年1月日本ロシュ株式会社試薬本部福岡支店営業課課員 1995年2月～1998年7月日本ロシュ株式会社試薬本部PCR (遺伝子診断) ビジネスユニット福岡支店Sales Planning 2004年10月～2005年3月リヨン経営大学非常勤講師 2007年4月～2012年3月西武文理大学サービス経営学部准教授
研究分野	組織論をベースにした営利・非営利組織を対象に、 ①経営組織論、②ガバナンス論、③経営管理論
主要業績	著書 ①『経営と組織』(編著)新潟国際情報大学情報システム教科書シリーズ6、2016年。 ②『医療ガバナンスー医療機関のガバナンス構築を目指して』(編著)日本医療企画、2010年。 論文 ①「新潟県における『ブライト企業』の研究ーシマト工業株式会社の事例よりー」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol. 2、2016年、pp.61-70。 ②「ノルウェーの水産業とそれを支援する機関ーノルウェー水産物審議会 (NSC) 及びノルウェー産業科学技術研究所 (SINTEF) を中心にー」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol. 2、2016年、pp.71-79。 ③「中小企業・ベンチャー企業のコーポレート・ガバナンス構築の考え方 株式公開を意識した企業への示唆」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol. 1、2015年、pp.98-108。 ④「テキストマイニング手法による水産養殖事業の重要イシュー探索 ポジ/ネガ要因の構造分析」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol. 1、2015年、pp.109-120。 ⑤「医療機関のガバナンス構築への取り組み」『medical forum CHUGAI』Vol. 19, No.1、2015年、pp.4-7。 ⑥「株式公開系ファミリー企業の不祥事に関するー考察」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第17号、2014年、pp.81-97。 ⑦「地域の中小企業とそれを取り巻くステークホルダーによる地域ブランド構築のメカニズム」『地域デザイン学会誌』第2号、2013年、pp.133-152。 ⑧「日米コーポレート・ガバナンスの課題と日本の経営で共感される価値観ー人間の経営を包含した経営哲学を目指してー」『西武文理大学研究紀要』第18号、2011年、pp.60-79。 ⑨「ステークホルダー・ダイアログが組織に与える影響ー組織と自治体・市民・地元団体間の事例を通してー」『日本大学ビジネス・リサーチ』第7巻、2010年、pp.122-131。 ⑩「病院とコミュニティの共進化ー専門知と非専門知による価値創造ー」『オフィス・オートメーション学会誌』Vol.27, No1、2006年、pp.55-63。 ⑪「医療機関へのBSCの導入と情報マネジメント」『経営情報学会誌』Vol.14 No4、2006年、pp.85-98。 ⑫「グループ経営の進展と持株会社の役割」『国際経営・システム科学研究』第35号、2004年、pp.17-34。 他18編
所属学会	組織学会、経営情報学会、日本情報経営学会、日本経営品質学会、国際戦略経営研究学会、情報システム学会
その他	新経営革新研究会主宰、日本クリニカル・ガバナンス研究会会員 新潟県農業共済組合連合会コンプライアンス委員会委員 (2012年～) 日本経営品質学会理事 (2015年～)



氏名	カミニシヅノ タケヨシ 上西園 武良 KAMINISHIZONO Takeyoshi
性別	男
生年月日	1951年5月17日
職名	教授 (2010年4月)
連絡方法	E-mail : tkami@nuis.ac.jp
学歴	1974年3月 神戸大学理学部物理学学科卒業 1976年3月 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了
学位	博士 (学術、大阪市立大学大学院、2009年12月)
職歴	1977年4月 アイシン精機株式会社入社、住生活機器 (ベッド、枕、ミシン、温水洗浄便座など) の企画・研究開発に従事 2004年1月 同社 主席技師
研究分野	人間工学、特に人間中心設計 (HCD) を実現するための設計論。具体的には、ヒトの特性 (物理的寸法・感覚・運動能力・認知) に適合した機器・日用品の設計手法の研究、良質な睡眠のための寝具の研究など。
主要業績	論文 査読付き ① 田中由美, 上西園武良 : 「ビニール袋の取り出し易さ向上に関する研究」, 人間生活工学, pp.27-32, Vol.17, No.2, 2016年 ② 上西園武良, 藤井勇次 : 「段差付キーによる誤タイピング低減」, 人間工学, pp.126-132, Vol.55, No.3, 2014年 ③ Kaminishizono T., Sakai S. : Preliminary Research to Decrease Splashing Mud During Walking, PROCEEDINGS of the HUMAN FACTORS and ERGONOMICS SOCIETY 56th ANNUAL MEETING, pp.1922-1926, 2012年 ④ 上西園武良, 細井広康, 川原理恵, 岡田明 : 「家庭用ミシンの操作性に関する研究」, 人間工学, pp.178-182, Vol.45, No.3, 2009年 ⑤ 上西園武良, 岡田明 : 「生活機器における感覚機能に対する設計解についての研究」, 人間中心設計, pp.21-28, Vol.5, No.1, 2009年 ⑥ 上西園武良, 葉袋賢一, 岡田明 : 「温水洗浄便座における洗浄強さ感に関する研究 洗浄強さ感を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.83-88, Vol.55, No.2, 2008年 ⑦ 上西園武良, 岡田明, 池浦良淳 : 「枕の開発における効率的な人間中心設計の方法 寝返り性能を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.29-34, Vol.54, No.5, 2008年 ⑧ 村田康弘, 池浦良淳, 上西園武良, 内藤公孝, 和阪学弘, 安達優, 水谷一樹, 澤井秀樹 : 「枕上における頭部の寝返り抵抗トルクの解析」, 機械学会論文集C編, pp.1539-1545, Vol.74, No.742, 2008年 ⑨ Kaminishizono T., Okada A.: Research concerning human-centred design; applicability to a household sewing machine, Related papers; Posters, 16th World Congress on Ergonomics, 2006年 ⑩ 上西園武良, 森井達弥, 木村禎祐, 折居直純 : 「快適睡眠寝室の開発 光環境による目覚めの最適化」, 人間生活工学, pp.25-29, Vol.7, No.3, 2006年
所属学会	日本人間工学会 (JES)、米国人間工学会 (HFES)



氏名	キシノ キヨタカ 岸野 清孝 KISHINO Kiyotaka
性別	男
生年月日	1949年4月20日
職名	教授 (2004年4月)
連絡方法	E-mail : kishino@nuis.ac.jp
学歴	1972年 京都工芸繊維大学工芸学部生産機械工学科卒業 1974年 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科生産機械工学専攻修士課程終了
学位	博士 (工学、京都大学、2004年3月)
職歴	1974年 株式会社日立製作所システム技術本部入社 1998年 株式会社日立製作所システム事業部ロジスティクスシステム部長 2002年 株式会社日立製作所システム事業部産業・流通システム本部長
研究分野	製造・流通分野においてビジネスプロセスを分析し、ITの活用により業務改革を行うシステムの計画に関する研究 ① 製造・流通におけるSCM (Supply Chain Management) の研究 ② 製造・流通におけるロジスティクスのIT化の研究 ③ トラック輸送の高度交通システム・ITS (Intelligent Transportation System) の活用によるIT化の研究
主要業績	著書 ① 「CIM生販統合の実現」 日本経済新聞社 (共著)、1990年 ② 「人工生命」 同文書院 (共著)、2002年 ③ 「流通と物流」 静岡学術出版、2007年 ④ 「卒業論文の作り方 複合領域分野における経営学研究の進め方」 静岡学術出版 (共著)、2008年 論文 ① 「On Stochastic Controllability for Nonlinear System」 IEEE AUTOMATIC CONTROL, 1974 ② 「FMSの動向と適用技術」 無人化技術、1987年 ③ 「VANの利用による資材業務の合理化・ペーパーレス化」 日立評論 1989年 ④ 「生産・販売統合CIMシステム」 日立評論、1993年 ⑤ 「生販統合化における情報処理の技術・製品・活用法」 ファクトリ・オートメーション、1994年 ⑥ 「需要変動に対応した生産計画」 電気学会産業応用部門全国大会 1995年 ⑦ 「21世紀ビジネス革新を支えるCALSの展開」 日立評論、1997年 ⑧ 「プローブカーを利用した交通情報予測方式の検討」 情報処理学会論文誌、2002年 ⑨ 「トラック運行管理ASPによる業務向け交通情報サービスの開発」 計測自動制御学会産業論文集、2003年 ⑩ 「半導体製造クリーンルームへの冷熱供給システムのライフサイクルコストと環境負荷最小化」 計測自動制御学会論文集、2006年 ⑪ 「サプライチェーンにおける総コスト最小となる輸配送計画の開発」 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2007年 ⑫ 「共同配送と納入時間指定配送による環境負荷要因 (稼働台数・走行距離・走行時間) への影響の定量的評価」 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2010年 ⑬ 「文系学部に設置された情報専門学科における情報システム分野の人材育成 (特集 大学教育の質的保証)」 情報処理、2012年
所属学会	情報システム制御学会、計測自動制御学会、交通工学研究会、情報システム学会、日本技術士会
その他	技術士 (経営工学部門、総合技術監理部門)



氏名	クワハラ サトル 桑原 悟 KUWAHARA Satoru
性別	男
生年月日	1956年7月15日
職名	教授 (2008年4月)
連絡方法	E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp
学歴	1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了 2008年3月 東京農工大学大学院博士後期課程単位取得満期退学
学位	工学修士 (東京農工大学、1983年3月)
職歴	1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ
研究分野	情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。
主要業績	論文 ① 状態をもった内部表現でプログラムを保持するプログラミング教育環境の有効性の検討 共著、2007.9 電子情報通信学会 信学技報 ② 初心者プログラミング環境に関する一考察 単著、FIT2007 ③ e-japan / u-japanにおける一般利用者のための情報セキュリティ認知の社会環境に関する一考察 単著、2005.11 情報処理学会IS研究報告 情報処理学会 ④ ビジネスアプリケーションのための新しいアクセス管理の視点 単著、2005.3 新潟国際情報大学紀要第8号 新潟国際情報大学 ⑤ 「大学の役割とIT化に関する一考察」単著、2003.9 情報処理学会 IS研究報告 情報処理学会 ⑥ 「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」 単著、2003.3 新潟国際情報大学紀要第6号 新潟国際情報大学 ⑦ 「Mobile phone as secure terminal for e-business」 単著、2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA ⑧ 「EC・セキュリティソリューション」、2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他 ⑨ 「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」 共著、2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村 ⑩ 『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際』 日本テクノセンター セミナー講演、1999年 ⑪ 『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』 共著、1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
所属学会	情報処理学会 情報システム学会 日本リスク研究学会
その他	・ Information Systems Audit and Control Association会員 ・ CISA (Certified Information Systems Auditor) ・ CISM (Certified Information Security Manager) ・ 東京農工大学 非常勤講師 (2002～) ・ 情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員 (1992～2012) ・ Visiting Professor, University of Alberta (2007)



氏名	コバヤシ ミツオ 小林 満男 KOBAYASHI Mitsuo
性別	男
生年月日	1955年4月18日
職名	教授 (2011年4月)
連絡方法	E-mail : mitsuo@nuis.ac.jp
学歴	1976年3月 仙台電波工業高等専門学校電波通信学科卒業 1985年3月 東京理科大学工学部Ⅱ部電気工学科卒業 1998年3月 産能大学大学院経営情報学研究科修士課程修了 2006年3月 埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了
学位	博士 (経済学、埼玉大学、2006年3月)
学職	1976年4月 日本電信電話公社入社。自動車電話方式・デジタルマイクロ波方式・衛星通信システム等の開発・導入及び法人営業・SEに従事 2011年3月 NTTコミュニケーションズ株式会社を退職
研究分野	(1) 企業、公共分野における情報通信システムの利活用の研究 (2) 情報通信システムの開発技法、評価方法の研究
主要業績	論文 <ul style="list-style-type: none"> ・小林満男「PBLによる情報システム開発教育の実践」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2015年4月 ・M. Tanaka, H. Sakamoto, M. Kobayashi & Y. Kitayama, "Estimation of Unwanted Spurious Domain Emissions From a Multicarrier Transmitter", IEEE Transaction on AEROSPACE AND ELECTRONIC SYSTEMS, Vol50, No.3 (p2293-p2303), July 2014 ・小林満男「新潟国際情報大学における情報システム教育改善の取り組み」『情報処理』Vol.55 No.9 (1008～1011頁)、2014年8月15日 ・小林満男・小宮山智志・上西園武良「緩やかなインタラク션을重視した情報システム教育の実践」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2014年4月 ・Masayoshi TANAKA, Hiroshi SAKAMOTO, Mitsuo KOBAYASHI, Yukiharu KITAYAMA, "Unwanted Emissions of Multi-carrier Transmitter in Spurious Domain", 26th AIAA, ICSSC2008 [The Best Paper] ・田中將義・坂本宏・小林満男・北山行治「マルチキャリア運用時の送信機からのスプリアス領域発射の検討」(信学技報)、2008年5月 ・小林満男「法人営業現場における持続的競争優位の構築」埼玉大学経済科学論究、2005年3月 ・小林満男「業界の常識の観点からみた競争戦略」竹野内情報工学研究所、2004年11月 ・小林満男「アドホックP2P無線網のビジネスモデルの検討」竹野内情報工学研究所、2003年11月 ・小林満男・根来龍之「規制された業界の業界変革モデルの提案」産能大学紀要、1998年9月 ・浅井孝司・齊藤洋一・小林満男「4/5/6L-D1方式用無線端局及び監視制御装置」電電公社研実報Vol.31、No.7、p1319～p1332、1982年 ・栗原功幸・小林満男・伊藤清敏「4/5/6L-D1方式用現場試験」電電公社研実報Vol.31、No.7、p1333～p1348、1982年
所属学会	日本経営学会、経営戦略学会、経営情報学会、組織学会 電子情報通信学会、日本技術士会
その他	技術士 (電気電子)、中小企業診断士 (1991年登録、現在休止中) 情報処理技術者 (特種) 無線従事者 (第1級総合無線通信士・第1級陸上無線技術士) 電気主任技術者 (第2種)、電気通信主任技術者 (伝送交換・線路) 長野大学企業情報学部 非常勤講師 (2008) 立教大学経営学部 兼任講師 (2010) 明治大学 (The Institute of Organizational Discourse) 客員研究員 (2007～) 東京理科大学理窓技術士会運営委員 (2008～) 新潟市水道事業経営審議会委員 (2011.10～) 一般財団法人自治体衛星通信機構理事 (2012.4～) 経営情報学会理事 (2005～2006、2013～2014、2015～2016) 新潟市西川図書館協議会委員 (2013～)



氏名	近藤 進 KONDO Susumu
性別	男
生年月日	1949年3月5日
職名	教授 (2001年9月)
連絡方法	E-mail : kondo@nuis.ac.jp
学歴	1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
学位	博士 (工学、京都大学、1994年5月)
職歴	1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
研究分野	光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子) および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長) 信越地域の情報通信
主要業績	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LiNbO₃ thin film", Appl. Phys.Lett.26, p489 (1975) ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O₃ solid-solution thin film waveguide on LiTaO₃ substrate", J.Crystal Growth 46, p314 (1979) ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61, p8 (1983) ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989) ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25, p385 (1996) ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-Quantum-Well Modulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p1171 (2002) <p>その他の論文 (http://www.nuis.ac.jp/~kondo/2004PAPERLIST.HTML)</p> <p>特許</p> <p>"Semiconductor opitcal device and fabrication method" European Patent,No.01251610 Jan.28 (2006) 独、英、仏、伊 No.01286439 Apr.12 (2006) 独、英、仏、伊 United State Patent,No.07060518 Jan.13 (2006) 米</p>
所属学会	電子情報通信学会 応用物理学会
その他	信越情報通信懇談会：運営委員



氏名 白井 健二
 性別 男
 生年月日 1949年8月31日
 職名 教授 (2009年4月)
 連絡方法 E-mail : shirai@nuis.ac.jp
 学歴 1973年3月 立命館大学工学部電気工学科卒
 1975年3月 立命館大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程終了
 学位 博士 (工学, 立命館大学, 2000年9月)
 職歴 1975年4月オムロンフィールドエンジニアリング入社, 阪神高速道路公団の交通管
 制システムに従事, 退職後, NTT 電話局業務システム等技術開発に従事, その後,
 1997年~2008年2月(株)情報工房代表取締役社長を経て現在に至る

研究分野 統計物理および数理ファイナンスを応用した生産システム解析
 主要業績

シライ ケンジ

白井 健二 SHIRAI Kenji
 男

1949年8月31日

教授 (2009年4月)

E-mail : shirai@nuis.ac.jp

1973年3月 立命館大学工学部電気工学科卒

1975年3月 立命館大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程終了

博士 (工学, 立命館大学, 2000年9月)

1975年4月オムロンフィールドエンジニアリング入社, 阪神高速道路公団の交通管
 制システムに従事, 退職後, NTT 電話局業務システム等技術開発に従事, その後,
 1997年~2008年2月(株)情報工房代表取締役社長を経て現在に至る

統計物理および数理ファイナンスを応用した生産システム解析

論文 (査読有)

- ① Title: An Optimal Production Capacity Control including Outside Suppliers
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.13, No.1, pp.167-182, February, 2017
- ② Title: Profit and Loss Analysis on a Production Business using Lead Time Function
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.13, No.1, pp.183-200, February, 2017
- ③ Title: Mathematical Modeling and Potential Function of a Production System Considering the Stochastic Resonance
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.4, pp.1761-1776, December, 2016
- ④ Title: Autocorrelation function and the power spectrum calculation for production processes
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.4, pp.1791-1808, December, 2016
- ⑤ Title: Synchronization analysis of the production process utilizing the phase-field model
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.5, pp.1597-1613, October, 2016
- ⑥ Title: Analysis of fluctuations in production processes using Burgers equation
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.5, pp.1615-1628, October, 2016
- ⑦ Title: Use of a Riemannian manifold to improve the throughput of a production flow system
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.4, pp.1073-pp.1087, August, 2016
- ⑧ Title: Synchronization analysis of a production process utilizing stochastic resonance
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.3, pp.899-914, June, 2016
- ⑨ Title: Analysis of Production Processes Using a Lead-Time Function
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.1, pp.125-138, February, 2016
- ⑩ Title: An Optimal Control of Production Process including Outside Suppliers
 著者: Kenji Shirai and Yoshinori Amano
 雑誌名: Asian Journal of Management Science and Applications , Vol.1, No.1, pp.83-103, 2015
 …他多数

学位論文

「トランザクション消滅を考慮した待ち行列系の確率的最適制御に関する研究」
 立命館大学、2000年9月

所属学会
 その他

電気学会
 電気学会 システム・制御・情報部門の論文委員会委員 (2003年8月~)



氏名	タカギ ヨシカズ 高木 義和 TAKAGI Yoshikazu
性別	男
生年月日	1949年10月20日
職名	教授 (1996年4月)
連絡方法	E-mail : takagi@nuis.ac.jp
学歴	1973年 京都大学農学部食品工学科卒業
学位	農学博士 (京都大学、1983年3月)
職歴	1973年～ 1996年 日本たばこ産業株式会社 (入社時は日本専売公社) 葉たばこ香嗅味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する科学情報の管理業務に従事。
研究分野	情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源ととらえ、実体としての組織や社会における有効な情報の受発信、人の行為と情報の利用、情報文化、データベースに関する研究を行っている。
主要業績	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「Coparative Study of the Bread and Bakery business in Japan and Thailand: A Guideline in Flour and Controlled Temperature for Thai bakeries」 共著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要 Vol.2、80-89、2016.4.1 ② 「情報システム論文作成のためのガイドブック第2版」 共著、情報システム学会、5、6章、2015.3.31、ISBN : 978-4-905112-04-4 ③ 「新潟国際情報大学卒論データベースの概念と論文表題の形態素解析による卒業論文の構成要素に関する考察」 単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.16、135-150、2013.4 ④ 「避難者情報の公開と個人情報保護～東日本大震災避難者名簿のデータベース化の試み～」 単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.15、103-111、2012.4 ⑤ 「情報検索」 単著、新潟国際情報大学、2011.3 ⑥ 「日本と北米における情報サービス産業の構造比較」 単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.10、119-130、2007.5 ⑦ 「日本と北米における情報サービス産業の構造比較 (2) ～新潟における情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」 単著、新潟国際情報大学、2007.4 ⑧ 「日本と北米における情報サービス産業の構造比較～カナダ・アルバータ州立大学Extension学部において倫理委員会の承認を受け実施したアルバータ州エドモントンにおける情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」 単著、新潟国際情報大学、2006.9 ⑨ 「概説情報論～情報とは何か～第12回～第1回」 単著、2003.10～2002.12 知のWebマガジンen、(10) 2003～(12) 2002、 (http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm～ http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm) ⑩ 「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育としての情報検索」 単著、2002.3 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002 ⑪ 「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」 単著、1999.3.19 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999 ⑫ 「インターネットにおける情報検索」 (情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996) ⑬ 「水府葉たばこの香気成分に関する研究」 (京都大学農学部博士論文 1982) その他の文献 (http://www.nuis.ac.jp/takagi/を参照)
所属学会	情報システム学会 三田図書館情報学会 情報処理学会 日本栄養・食糧学会
その他	(財) バテルメモリアル研究所 客員研究員 (1987) 情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員 (2001.4～2005.3)、同・情報処理学会情報システム教育委員会委員 (2011.3～) 情報システム学会理事 (2005.4～2010.3)、同・評議員 (2010.4～) アルバータ州立大学 Visiting professor (2005.4～2005.9) 新潟市個人情報保護審議会委員・会長 (2011.4～)



氏名	チカヤマ エイスケ 近山 英輔 CHIKAYAMA Eisuke
性別	男
生年月日	1971年4月16日
職名	教授 (2017年4月)
連絡方法	E-mail : chikaya@nuis.ac.jp
学歴	1993年3月 長岡工業高等専門学校土木工学科卒業 1995年3月 長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程卒業 1997年3月 長岡技術科学大学大学院工学研究科生物機能工学専攻修士課程修了
学位	博士 (工学、長岡技術科学大学、2010年6月)
学歴	2000年5月～2005年4月 (特) 理化学研究所ゲノム科学総合研究センターテクニカルスタッフ 2004年2月～2004年3月 東京農工大学工学部非常勤講師を兼任 2005年5月～2011年8月 (独) 理化学研究所植物科学研究センター技師 2010年7月～2011年8月 横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科大学院客員研究員を兼任 2011年1月～2011年8月 (独) 理化学研究所次世代計算機科学研究開発プログラムを兼任
研究分野	(1) 生物物理学、生物情報科学 (2) 生命システムと情報システム (3) 高性能計算 (HPC)
主要業績	論文 ① J.Kikuchi,Y.Tsuboi,K.Komatsu,M.Gomi,E.Chikayama,Y.Date, "Spin Couple: Development of a Web Tool for Analyzing Metabolite Mixtures via Two-Dimensional J-Resolved NMR Database", Analytical Chemistry 88,659-665 (2016) ② E. Chikayama, "Decomposition of multivariate function using the Heaviside step function", SpringerPlus 3, 704 (2014) ③ E. Chikayama, Y. Sunaga, S. Noda, H. Yokota, "Solvable model for chemical oscillations", Journal of Mathematical Chemistry 52, 399-406 (2014) ④ T. Mori, E. Chikayama, Y. Tsuboi, N. Ishida, N. Shisa, Y. Noritake, S. Moriya, J. Kikuchi, "Exploring the conformational space of amorphous cellulose using NMR chemical shifts", Carbohydrate Polymers 90, 1197-1203 (2012) ⑤ Y. Ogata, E. Chikayama, Y. Morioka, R. C. Everroad, A. Shino, A. Matsushima, H. Haruna, S. Moriya, T. Toyoda, J. Kikuchi, "ECOMICS: A Web-Based Toolkit for Investigating the Biomolecular Web in Ecosystems Using a Trans-omics Approach", PLoS ONE 7, e30263 (2012) ⑥ Y. Sekiyama, E. Chikayama, J. Kikuchi, "Evaluation of a Semipolar Solvent System as a Step toward Heteronuclear Multidimensional NMR-Based Metabolomics for (13) C-Labeled Bacteria, Plants, and Animals", Analytical Chemistry 83, 719-726 (2011) ⑦ E. Chikayama, A. Kurotani, T. Tanaka, T. Yabuki, S. Miyazaki, S. Yokoyama, Y. Kuroda, "Mathematical model for empirically optimizing large scale production of soluble protein domains", BMC Bioinformatics 11, 113 (2010)
所属学会	日本生物物理学会、日本核磁気共鳴学会、バイオスーパーコンピューティング研究会
その他	2011年9月～ 理化学研究所客員研究員



氏名
性別
生年月日
職歴
連絡方法
学歴
学位

ニシヤマ シゲル

西山 茂 NISHIYAMA Shigeru
男

1950年7月12日

教授 (2010年4月)

E-mail : nishiyama@nuis.ac.jp

1975年 電気通信大学大学院電波通信専攻科修了
工学修士

1975年～1980年 日本電信電話公社 (現NTT) 電気通信研究所にて予測符号器の研究、加入者系の研究に従事

1980年～2002年 NTT研究所及び事業部門で、日本語コンパイラ、ソフトウェア開発環境、ファンクションポイント法を含むソフトウェアメトリクス、ソフトウェア見積法、Web系通信システム (会議システム)、WBT、3D、人事評価システム、電子図書館、指紋認証システムの各研究開発に従事。さらに、ISO9000運用、社内LAN構築運用にも従事

1987年～1988年 NTT研究所在勤中米ボストンに滞在し、米社社員とともにソフトウェア開発環境開発業務に従事

1991年、1992年、1993年、各10月～3月 静岡大学工学部非常勤講師 (ネットワーク特論)

2002～2006年 NTTアドバンステクノロジー(株)にて技術営業、各種ソフトウェア開発のPM、情報セキュリティ、ISO9000、プロジェクト品質管理等の業務を推進
2006年7月～2010年3月 新潟市政策企画部・IT政策監として新潟市役所の電子自治体、最適化、品質管理に関する業務に従事

研究分野

①ソフトウェアメトリクス及びソフトウェア開発管理に関する研究

主要業績

②ネットワーク応用システムに関する研究

著書

①「ソフトウェア開発の定量化手法」、共立出版、1993年 共訳

②「ソフトウェア病理学」、共立出版、1995年 共訳

③「ソフトウェアの成功と失敗」、共立出版、1997年 共訳

④「ソフトウェアインスペクション」、共立出版、1999年 共訳

⑤「情報産業 ～情報と経済活動～」、情報システム教科書シリーズ5、新潟国際情報大学、2015 (単著)

論文

①「ファンクションポイント法の有効性と適用性」、第14回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1994年9月 (共著)

②「ファンクションポイント法の効率的適用に関する一考察」、第15回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1995年9月 (共著)

③「ファンクションポイント法の計測精度に関する一考察」、第16回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1996年9月 (共著)

④「The validity and applicability of function point analysis」, EFPU, Fourth European Conference on Software Quality, 1994 (単著)

⑤「Validation of Application Results of COSMIC-FFP to Switching Systems」, ASMA, Australian Conference on Software Metrics (ACOSM), 2003 (共著)

⑥「ソフトウェア機能規模測定法最新動向」、SEC journal No.5、IPA、2006年 (単著)

⑦自治体情報システム全体最適化に係る検討、FIT2009、2009年9月 (共著)

⑧「大学の情報共有基盤に関する一考察」、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.1、PP129-137、2015 (単著)

⑨「BABOKの大学学生自治会業務への適用」、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、2016 (共著)

⑩「学生・教職員向け情報共有・提供システムのUIに関する検討」、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.3、2017 (投稿予定、単著)

特許

①特許第1236463号 局内伝送路監視方式 (共同出願)

②特許第12317533号 デジタル通信の局内信号方式 (共同出願)

③特願平11-327357 インタネットを利用した物品受け取り方法 (単独出願)
情報処理学会、情報システム学会、電子情報通信学会、IEEE

所属学会
その他

日本ファンクションポイントユーザ会会長 (1993年～2006年)、名誉会長 (2011年～)

日本工業標準調査会 (JISC) 情報技術専門委員会臨時委員 (2013年～)

情報処理学会規格調査会SC7専門委員会幹事 (2000年～2006年)、同SC7専門委員会WG12小委員会主査 (1999年～2006年)

ISO/IEC JTC1/SC7/W12 Expert (1993年～2006年)、同Project Editor (ISO/IEC 14143-6 Functional Size Measurement Part 6担当) (2004年～2006年)

新潟市事業仕分け外部評価会議委員 (2012年)

新潟市指定管理者外部評価会議委員 (2013年～2017年)

新潟市西蒲区公共交通検討会議委員 (2013年、2014年)



氏名	フジセ タケヒコ 藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko
性別	男
生年月日	1962年4月22日
職名	教授 (2002年4月)
連絡方法	E-mail : fujise@nuis.ac.jp
学歴	1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業 1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了 1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了
学位	体育学修士 (東海大学、1987年3月) 博士 (医学) (東海大学、1992年9月)
職歴	1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師 1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師 1998年4月～新潟国際情報大学助教 2002年4月～新潟国際情報大学教授
研究分野	① 運動生理学 (身体機能に及ぼす高酸素吸入の効果) ② 肥満学 (隠れ肥満及び痩せ願望の実態、ボディイメージの歪みについて) ③ トレーニング科学 (ウエイトトレーニング、高酸素トレーニングの効果)
主要業績	著書 ① 『筋力をつくるトレーニング』長澤純一編著「体力とはなにか」、NAP、190～206、2007年 論文 ① 藤瀬武彦・他「一般青年男女におけるベンチプレスの1RM相対重量での最高反復回数」トレーニング科学、第21巻第2号、225～238、2009年 ② 藤瀬武彦・他「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究、Vol.21、35～45、2003年 ③ 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学、第52巻第4号、421～432、2003年 ④ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年 ⑤ 藤瀬武彦・他「持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年 ⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年 ⑦ 藤瀬武彦・他「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年 ⑧ Fujise,T., Terao,T., and Nakano,S.「Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992 ⑨ 藤瀬武彦・他「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年 ⑩ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「短時間最大運動時の酸素摂取が作業成績に及ぼす影響」体育学研究、第35巻第2号、133～142、1990年 ⑪ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「血中乳酸値および酸素負債量による無酸素的運動能力評価法の検討」体力科学、第38巻第3号、85～94、1989年
所属学会	日本体育学会・日本体力医学会・日本運動生理学会・日本肥満学会・日本トレーニング科学会・日本公衆衛生学会
その他	新潟県パワーリフティング協会理事・北信越学生陸上競技連盟評議員



氏名	フジタ ハルヒロ 藤田 晴啓 FUJITA Haruhiro
性別	男
生年月日	1955年12月10日
職名	教授 (2012年4月)
連絡方法	E-mail : fujita@nuis.ac.jp
学歴	1981年3月 宮崎大学農学部草地学科卒業 1983年3月 九州大学大学院農学研究科畜産学専攻修士課程修了 1989年3月 キーンズランド大学農学研究科博士研究課程修了
学位	Doctor of Philosophy (The University of Queensland, 1989,8)
職歴	1989年4月 農林水産省草地試験場研究員任官、地理情報システム研究 1992年3月 国際農林水産業研究センター主任研究官、乾燥地保全研究 1992年3月 Int.Cent.Agric.Res. in Dry Areas, Senior Scientist (併任) (国際乾燥地農業研究センター上席研究者 乾燥地情報システム) 1995年10月 農林水産省四国農業試験場企画連絡室、防災システム研究 2000年7月 日本国際協力システム業務第一部 2003年4月 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授 (地理情報システム)
研究分野	(1) 地理情報システムによるマーケティング、産業経済統計データの可視化と解析 (2) 廃食油SVO発電による環境問題解決および地域循環エネルギー創生 (3) MR (複合現実) 技術による博物館収蔵品とホログラムの融合展示 (4) 能とプロジェクション・マッピングおよびホログラムのコラボレーション (5) マチュ・ピチュの歴史保護区インカ都市文化財保存修復調査研究
主要業績	① 藤田晴啓 西浦忠輝 マチュ・ピチュ歴史保護区インカ都市 太陽神殿・大塔の保存修復調査研究 ―特異な損傷とその原因― 新潟国際情報大学情報文化学部紀要Vol3, 2017 ② Haruhiro Fujita, Variable Renewable Energies for Development, a key note session of International Conference on Control, Electronics, Renewable Energy, and Communications 2016's proceedings, 9, IEEE 2016. 基調講演 ③ Haruhiro Fujita, Jun Sakaguchi, Hiroshi Takimoto and Kazuya Okazaki, A Feasibility Study on a Photovoltaic-Pumped Hydroelectric System Using Agricultural Reservoirs of Sado Island. Proceedings of International Conference on Control, Electronics, Renewable Energy and Communication, 112-116, 978-1-4799-8975-1/15 IEEE 2015. ④ Haruhiro Fujita, Hiroshi Takimoto, Jun Sakaguchi and Kazuya Okazaki, A preliminary Study on Micro Hydraulic Power Using Irrigation Water on Sado Island, Japan. Proceedings of International Conference on Control, Electronics, Renewable Energy and Communication, 122-128, 978-1-4799-8975-1/15 IEEE 2015. ⑤ 藤田晴啓 新潟市およびボゴール市における廃食油再生化事業の問題と解決に関する一考察 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第18号, 2015 ⑥ 中野 勝行・藤田 晴啓・Joko Prayitno SUSANTO・Dadang SUPRIATNA・奥原 浩之・椿 広計、使用済食用油のバイオ燃料化とリユースの地球温暖化へのライフサイクル影響評価：インドネシア国ボゴール市におけるケーススタディ、Journal of Life Cycle Assessment, Vol. No.4 2013 1-9
所属学会 その他	地理情報システム学会他 おらって にいがた市民エネルギー協議会運営委員 新潟食の革新機構委員 にいがたGIS推進協議会アドバイザー マチュ・ピチュ遺跡修復保存国際協力プロジェクト調査副団長



氏名	アベ サトシ 阿部 聡 ABE Satoshi
性別	男
生年月日	1977年
職名	准教授 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : satabe@nuis.ac.jp
学歴	2000年3月 新潟大学人文学部行動科学課程 卒業 2002年3月 新潟大学大学院人文科学研究科修士課程 修了 2011年3月 新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程満期退学
学位	修士 (文学) (新潟大学、2002年3月)
職歴	2005年4月～2006年3月 新潟経営大学非常勤講師 2005年4月～2011年3月 長岡工業高等専門学校非常勤講師 2005年10月～2006年3月 新潟大学非常勤講師 2009年4月～現在 新潟医療福祉大学非常勤講師 2010年4月～2013年3月 新潟国際情報大学非常勤講師 2010年10月～2013年3月 新潟大学非常勤講師 2011年4月～2013年3月 北陸大学非常勤講師 2013年4月～2016年3月 会津大学短期大学部社会福祉学科講師 (専任)
研究分野	機能言語学、英語教育
主要業績	<ul style="list-style-type: none"> ① 阿部聡. 日本語におけるN-Rheme : 書記テキストにおける具現と機能について (『現代社会文化研究』25号、新潟大学大学院現代社会文化研究科. pp. 267-283, 2002) ② 阿部聡. 観念構成的比喩としての名詞化 (『欧米の言語・社会・文化』第10号、新潟大学大学院現代社会文化研究科「欧米の言語・社会・文化の総合的研究」プロジェクト班. pp. 1-29, 2004) ③ 阿部聡. 日本語のジャンル構造と語彙-文法的資源 —テキスト形成的メタ機能を中心に— (『現代社会文化研究』30号、新潟大学大学院現代社会文化研究科. pp. 179-195, 2004) ④ 田中真由美・阿部聡. 批判的談話分析のクリティカル・リーディングへの応用 (『中部地区英語教育学会紀要』38、中部地区英語教育学会. pp.23-30, 2009) ⑤ 阿部聡・田中真由美. ESL/EFLリーディング教科書の批判的談話分析 (Proceedings of JASFL Vol.3, 日本機能言語学会. pp.15-24, 2009) ⑥ 田中真由美・大湊佳宏・阿部聡. ペア・プランニングが自由英作文に与える影響—Coh-Metrixを用いたテキスト分析— (STEP Bulletin Vol.21, 日本英語検定協会. pp.174-180, 2009) ⑦ 阿部聡. 日本語学術的テキストにおける主題-題述構造と主題進行パターン (『言語の普遍性と個別性』第1号、新潟大学現代社会文化研究科. pp.53-68, 2010) ⑧ 阿部聡. 童話「かちかち山」再話の比較 —機能言語学的分析に基づく幼児への言語指導に関する一試案— (『会津大学短期大学部研究紀要』第72号 pp.119-127, 2015)
所属学会	日本機能言語学会 中部地区英語教育学会 日本語用論学会 全国英語教育学会



氏名	イシイ タダオ 石井 忠夫 ISHII Tadao
性別	男
生年月日	1955年11月3日
職名	准教授（2001年4月）
連絡方法	E-mail : ishii@nuis.ac.jp
学歴	1980年 山形大学工学部電子工学科卒業 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了
学位	工学修士（山形大学、1982年3月） 博士（情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月）
職歴	1982年 日立製作所 入社、計測器事業部（旧、那珂工場）において、理化学分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光／分光光度計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。 2015年9月～2016年8月 Łódź大学心理学部認知科学科客員教授
研究分野	1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究 3) 量子計算の体系の研究
主要業績	論文 ① 「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96－104. ② 「A note on varieties of PCI-algebras with EDPC」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75－81. ③ 「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22－24. ④ 「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Kraków, Poland 1999. ⑤ 「An Extension of Martin-Löf's Type Theory with an Evolution Relation」, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9－12, Japan 2001, pp.33－37. ⑥ 「A formal theory of the calculus of indication」, Bulletin of NUIS, Vol.9, 2006. ⑦ 「ソフトウェア仕様の差分について」, Bulletin of NUIS, Vol.10, 2007. ⑧ 「ソフトウェア仕様とプログラムの導出」, Bulletin of NUIS Vol.12, 2009. ⑨ 「構成的型理論に基づいた定理証明プログラムの試作」, Journal of NUIS, Vol.13, 2010. ⑩ 「SCI for Pair-Sentence」, the 13th Studia Logica International Conference on Trends in Logic XIII, University of Łódź, Poland 2014. ⑪ 「A system of pair sentential calculus that has a representation of the Liar sentence」, Bulletin of NUIS Vol.1, 2015. ⑫ 「A Syntactical comparison between pair sentential calculus PSC and Gupta's definitional calculus Cn」, Bulletin of NUIS Vol.2, 2016. ⑬ 「SCI for pair-sentence and its completeness」, the Conference on Non-Classical Logics, Theory and Applications, University of Łódź, September 5-7, Poland 2016, Vol.8, pp.61-65.
所属学会	日本数学会 日本ソフトウェア科学会 情報処理学会 情報システム学会



氏名	イシカワ ヒロシ 石川 洋 ISHIKAWA Hiroshi
性別	男
生年月日	1963年6月24日
職名	准教授 (2008年4月)
連絡方法	E-mail : ishihiro@nuis.ac.jp
学歴	1986年 静岡大学理学部数学科卒業 1989年 金沢大学大学院理学研究科修了 1998年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了
学位	博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、1998年3月)
職歴	1989年4月 株式会社CSK総合研究所入社、エキスパートシステム開発に従事 1992年9月 株式会社CSKへ転籍、同年12月退社 1998年4月 福山大学工学部情報処理工学科 助手 2004年4月 同 専任講師 2007年4月 福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 専任講師 (配置換え)
研究分野	①並行自己反映計算の宣言的記述に関する研究 ②形式仕様言語による記述の自動検証に関する研究
主要業績	論文 ① An Example for Concurrent Reflective Computations in Rewriting Logic, First IFIP Workshop on Formal Methods for Open Object-based Distributed Systems, pp.178-185 (1996) ② On the Semantics of GAEA, Proceedings of FLOP, pp.123-142 (1998) ③ An Operational Semantics of GAEA in CafeOBJ, Proceedings of OBJ/CafeOBJ/Maude Workshop at FM' 99, pp.213-225 (1999) ④ Z仕様から代数仕様への自動変換に関する考察、第20回ソフトウェアシンポジウム論文集、pp.31-38 (2000) ⑤ A Proposal on a Model of an Autonomous Agent using the Meta-Level Architecture, Proceedings of KIMAS 2003, pp.83-87 (2003) ⑥ A Specification Construction Unit-based editor for Z, Proceedings of 29th COMPSAC Workshops and Fast Abstract, pp.5-6 (2005) ⑦ An Approach for Refactoring using ESC/Java2 -A Simple Case Study-, NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp.61-72 (2009) ⑧ A Formal Specification for Routing Information Protocol with VDM-SL, Proceedings of ITC-CSCC 2011. (CD-ROM), 4pages (2011) ⑨ A Tentative Approach to Program Refactoring with UML Editor Plug-in for Eclipse, Proceedings of ITC-CSCC 2012 (CD-ROM), 4pages (2012) ⑩ ProBを用いたVDMの陰仕様の解釈実行の試み、ソフトウェア工学の基礎XXI、日本ソフトウェア科学会FOSE2014、pp.171-176 (2014) ⑪ Interpreting Implicit VDM Specifications using ProB, Proceedings of the 12th Overture Workshop on VDM, Newcastle University Computing Science Technical report, CS-TR-1446, pp.6-20 (2015)
所属学会	日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本数式処理学会、情報システム学会
その他	ACM, IEEE Guest Researcher, Aarhus University (Denmark) (2013.9-2014.8) 情報処理学会・情報システム教育委員会委員 (2016.5 ~)



氏名	イムラ トモコ 伊村 知子 IMURA Tomoko
性別	女
生年月日	1979年2月6日
職名	准教授 (2015年4月)
連絡方法	E-mail : imura@nuis.ac.jp
学歴	2001年3月 関西学院大学文学部心理学科卒業 2003年3月 関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程前期課程修了 2006年3月 関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程後期課程修了 博士 (心理学) (2006年3月、関西学院大学)
学職	2007年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) 2009年5月 京都大学霊長類研究所比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 研究部門、特定助教 2011年10月 京都大学霊長類研究所思考言語分野、特定助教
研究分野	(1) 大域的情報処理の比較認知発達 (2) 質感の知覚・認知とその発達 (3) 視覚情報と経済的価値判断
主要業績	論文 (2012年4月以降) ① Goto, K., Imura, T., & Tomonaga, M. (2012). Perception of emergent configurations in humans (<i>Homo sapiens</i>) and chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>). <i>Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes</i> , 38, 125-138. ② Imura, T., Adachi, I., Hattori, Y., & Tomonaga, M. (2013). Perception of the motion trajectory of objects from moving cast shadows in infant Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>). <i>Developmental Science</i> , 16, 227-233. ③ Imura, T., & Tomonaga, M. (2013). A ground-like surface facilitates visual search in chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>). <i>Scientific Reports</i> , 3, 2343. ④ Imura, T., & Tomonaga, M. (2013). Differences between chimpanzees and humans in visual temporal integration. <i>Scientific Reports</i> , 3, 3256. ⑤ Shirai, N. & Imura, T. (2014). Looking away before moving forward: changes in optic flow perception precede locomotor development. <i>Psychological Science</i> , 25, 485-493. ⑥ Shirai, N., & Imura, T., Tamura, R., & Seno, T. (2014). Stronger vection in junior high school children than in adults. <i>Frontiers in Psychology: Perception Science</i> , 5:563, 1-6. ⑦ Imura, T. & Shirai, N. (2014). Early development of dynamic shape perception under slit-viewing conditions. <i>Perception</i> , 43, 654-662. ⑧ Shirai, N. & Imura, T. (2014). Implied motion perception from a still image in infancy. <i>Experimental Brain Research</i> , 232, 3079-3087. ⑨ Tomonaga, M., & Imura, T. (2015). Efficient search for a face by chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>). <i>Scientific reports</i> , 5. ⑩ Imura, T., Masuda, T., Shirai, N., & Wada, Y. (2015). Eleven-month-old infants infer differences in the hardness of object surfaces from observation of penetration events. <i>Frontiers in Psychology: Developmental Psychology</i> , 6. ⑪ 伊村知子, 白井述, & 岡本-パーツ早苗. (2016). 買物ゲームにおける小学生と大学生の経済学的価値評価: Physical presence の影響. <i>Proceedings of the auditory research meeting</i> , 46, 19-24. 日本音響学会. ⑫ Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K. (2016). Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods. <i>Scientific Reports</i> , 6, 34685. ⑬ Shirai, N., & Imura, T. (2016). Infant-specific gaze patterns in response to radial optic flow. <i>Scientific Reports</i> , 6, 34734. ⑭ Shirai, N. & Imura, T. (2016). Emergence of the ability to perceive dynamic events from still pictures in human infants. <i>Scientific Reports</i> , 6, 37206. 著書 (2012年4月以降) ① 伊村知子 (2013). 行動生物学事典 (分担執筆) 上田恵介・岡ノ谷一夫・菊水健史・坂上貴之・辻和希・友永雅己・中島定彦・長谷川寿一・松島俊也 (編集) 東京科学同人. ② 伊村知子 (2013). 新版心理学事典 (分担執筆) 平凡社. ③ 伊村知子・友永雅己 (2014). ちびっこチンパンジー: 隙間から見た世界. 科学, 84 (2), 146-147. 岩波書店. ④ 伊村知子 (2015). 私の出前授業: 動物から見た世界に思いを馳せる. 心理学ワールド, 69, 30-31.
所属学会	日本赤ちゃん学会、日本基礎心理学会、日本心理学会、日本動物心理学会、日本乳幼児医学・心理学会、日本発達心理学会、日本霊長類学会



氏名	コミヤマ サトシ 小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi
性別	男
生年月日	1969年5月3日
職名	准教授 (2004年4月)
連絡方法	E-mail : komiyama@nuis.ac.jp
学歴	1994年 中央大学文学部社会学科卒業 1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了 1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位習得退学
学位	社会学修士 (中央大学、1996年3月)
職歴	1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師
研究分野	「職業における“楽しみ”の階層研究」を行っております。どのような仕事もつらい面、楽しい面がありますが、楽しい面が一部の人々に偏りがちになっているのではないかと、楽しい面を多くの人々に配分するためにはどのようにしたら良いか、研究しております。 学生とともに地域の町おこしに取り組みながら、統計的な質問紙調査、少数事例の聞き取り調査などを組み合わせ、取り組んでおります。その他、以下の主要業績のようなテーマを扱っております。
主要業績	論文など ①「女子学生のインターネット (SNS) を介した出会いの要因解明」(第60回数理社会学会大会 2015年8月29日 2015年度本学卒業生鈴木貴也 (ファーストオーサー) との共同研究) ②「情報感度の学習成果に及ぼす影響」(経営情報学会2014年秋季大会 2014年11月22日 共同研究者:小林満男) ③「ネガティブ情報がもたらす購買促進効果の要因解明」(第55回数理社会学会大会 2013年3月19日 2012年度本学卒業生伊佐瞳 (ファーストオーサー) との共同研究) ④「職業における“楽しみ”の階層研究」(第53回数理社会学会大会 2012年3月14日) ⑤「モータリゼーションが発達した地方都市における消費者の店舗選択要因の解明」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第11号、pp.31-39 2008年) ⑥「コンピュータ活用の差異がE-Learningの評価に及ぼす影響」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第10号、pp.99-106 2007年) ⑦「階層線形モデルによる“地域不公平感”の分析」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号、pp.161-178 2004年) ⑧「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」(M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be,Minsitry of Education,Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report,09410050,2000 pp.87-100) ⑨「三条・燕市製造業者間のデジタルデバイド」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号、pp.103-121 2003年) ⑩「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」(紀要 中央大学文学部社会学科 第10号、pp.199-213 2000年) ⑪「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」(社会科学研究所年報 第3号、pp.67-79 1999年) ⑫「日本の公正地図」(宮野勝 [編]『公平感と社会階層』 科研報告書、pp.195-214 1998年) ⑬「新聞における公正」(宮野勝 [編]『日本人の公正観』 中央大学社会科学研究所報告書 第17号、pp.193-202 1996年) ⑭「公正観の深層理解:自由面接データの分析」(宮野勝 [編]『社会的公正の研究:理論実証・応用』 科研報告書、pp.154-165 1996年)
所属学会	数理社会学会、日本社会学会、関東社会学会、日本行動計量学会
社会貢献	佐潟観光プロジェクトチーム 赤塚小学校 学校評議員 赤塚郷ゆかりの文人展 実行委員会



氏名	ササキ トウコ 佐々木 桐子 SASAKI Toko
性別	女
生年月日	1972年2月22日
職名	准教授 (2008年4月)
連絡方法	E-mail : tohko@nuis.ac.jp
学歴	1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業 1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生 2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
学位	経営学修士 (東洋大学、1996年3月)
職歴	2005年～ 新潟大学経済学部非常勤講師
研究分野	生産システム、ロジスティクスシステム、および道路交通システムなどを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。 また、動機付け教育を目的として、シミュレーション技術を活用した学習支援システムの開発および運用、さらには出席管理を効率的、効果的に行う授業支援システムの開発に携わっている。
主要業績	論文 ① “Disaster Management and JIT of Automobile Supply Chain”, <i>Journal of Niigata University of International and Information studies</i> , No.16, pp81-95, 2013. ② 「バイオメトリクスのユーザー受容性に関する諸課題～指静脈認証による出席管理システムの事例～」(単著)『バイオメディカル・ファジィシステム学会誌』 Vol.12, No.1, pp.79-86, 2010. ③ 「指静脈認証による出席管理システムの開発」(単著)『日本情報経営学会学会誌』 vol.29, No.4, pp.49-55, 2009. ④ 「授業支援システム開発 ～出席管理のすすめ～」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第12号, pp.151-162, 2009. ⑤ 「シミュレーション演習におけるe-Learningおよび協調学習の適用」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第10号, pp.107-112, 2007. ⑥ 「高等学校における教科「情報」に関する実態調査および大学入学時の情報リテラシー能力の変化」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.27, No.2, pp.69-75, 2006. ⑦ 「動機付け教育を目的としたe-Learningコンテンツの開発」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第9号, pp.131-138, 2006. ⑧ “A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, <i>Studies in Informatics and Sciences</i> , No.13, pp.81-89, 2001. ⑨ 「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.20, No.3, pp.76-82, 2000. ⑩ 「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.18, No.4-2, pp.133-136, 1998. ⑪ 「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.18, No.4-2, pp.99-102, 1997.
所属学会	日本経営システム学会 情報システム学会 経営情報学会
その他	社団法人私立大学情報教育協会経営工学教育IT活用研究委員会委員 (2005.7～) 新潟県地方港湾審議会委員 (2012.6～) 新潟労働局公共調達監視委員会委員 (2015.2～) 新潟労働局新潟地方最低賃金審議会委員 (2015.9～)



氏名	フジタ ミユキ 藤田 美幸 FUJITA Miyuki
性別	女
職名	准教授 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : miyu@nuis.ac.jp
学歴	2004年3月 新潟大学経済学部経営学科卒業 2007年9月 新潟大学大学院 現代社会文化研究科現代マネジメント専攻 博士前期課程修了 2016年3月 新潟大学大学院 現代社会文化研究科人間形成文化論専攻 博士後期課程修了
学位	博士 (経済学) (新潟大学、2016年3月) 経営学修士 (新潟大学、2007年9月)
職歴	新潟大学産学地域連携推進機構産学地域人材育成センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 博士インターシップ研究員 (2011.5 ~ 2011.11) 新潟大学大学院現代社会文化研究科 リサーチ・アシスタント (2015.4-2016.3)
研究分野	経営情報学、戦略論をベースとしICTを活用した 1.ヘルスケア産業の研究 2.スポーツツーリズムの研究
主要業績	論文 ①「ヘルスケアサービスとゲーミフィケーションの親和性—ユーザー特性に着目して—」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要、No.62、303-320、2016.3 ②「モバイルデバイスが引き起こすインスタントイノベーション」共著 (筆頭著者)、日本情報経営学会誌、vol.35,no.4、pp.72-80、2015.7 ③「産業構造分析における勝敗マトリックスの有用性について—フィットネスクラブ産業への適用—」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要、No.60、67-84、2015.3 ④「日本の社会構造の変化がもたらすICTヘルスケア」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要、No.59、163-180、2014.12 ⑤「超高齢社会とICT化によるスポーツクラブのパーソナイズ市場への変化」共著 (筆頭著者)、日本経営スポーツ学会研究年報 vol.4、42-61、2014.12 ⑥「ゲノム情報解析産業が創造した遺伝子検査市場の今後と課題 —運動適性予測、体質・疾病リスク評価などを扱う遺伝子検査をめぐる—」共著、日本経営スポーツ学会研究年報 vol.4、62-78、2014.12 ⑦「総合型地域スポーツクラブの持続的発展に向けた育成支援に関する研究」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要 No.43、143-160、2008.12
所属学会	日本情報経営学会、地域デザイン学会、モバイル学会、日本経営スポーツ学会、情報システム学会
その他	中部スノーボード協会 理事 (1995.9 ~) 全日本スノーボード選手権中部地区大会 大会組織委員長 (2007.9 ~) 全日本スノーボード学生選手権大会 大会組織委員長 (2012.9 ~)



氏名	ヤマシタ イサオ 山下 功 YAMASHITA Isao
性別	男
生年月日	1972年12月14日
職名	准教授 (2013年4月)
連絡方法	E-mail : iyamashi@nuis.ac.jp
学歴	1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業 1998年3月 横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了 2009年3月 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士課程後期単位取得満期退学
学位	修士 (経営学) (横浜国立大学、1998年3月)
職歴	1998年3月～2003年4月 ミツミ電機株式会社 (現ミネベアミツミ株式会社) 経理部 2007年9月 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	管理会計、原価計算、会計情報システム
主要業績	論文 ①「旅客運輸事業の利益性に関する考察：鉄道、バス、タクシー会社のセグメント情報による」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.3 (2017年3月) ②「会計ソフトウェアにおける管理会計情報に関する考察」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.2 (2016年4月)、pp.90-95. ③「文系研究室における低予算の産学連携」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.1 (2015年4月)、pp.92-97. ④「大学初年次教育における作文の試行事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部紀要』、第16号 (2013年4月)、pp.97-103. ⑤「無料公衆無線LANの現状：収益・費用構造を中心に」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第15号 (2012年4月)、pp.81-87. ⑥「授業評価アンケートシステムの費用対効果：新潟国際情報大学における導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第14号 (2011年4月)、pp.83-91. ⑦「マークシートによる授業支援システムの費用対効果：新潟国際情報大学における試行導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第13号 (2010年4月)、pp.115-123. ⑧「企業間連携における原価管理 組立型総合電子部品メーカーの事例研究」、『財務管理研究』、第16号 (2005年12月)、pp.101-110. ⑨「企業間原価管理の事例研究 組立型総合電子部品メーカーの事例」、『横浜国際社会科学研究所』、第9巻第6号 (2005年2月)、pp.95-112. ⑩『電力事業における原価管理』、横浜国立大学大学院経営学研究科修士論文、1998年.
所属学会	日本原価計算研究学会 日本管理会計学会 日本財務管理学会 日本会計研究学会 情報システム学会
その他	新潟市西区自治協議会委員 (2009年4月～2011年3月) 新潟県下越地区吹奏楽連盟代議員 (2010年度) 新潟市財務会計システム再構築基本計画策定業務 (2015年度) 数学おもしろ講座講師 (2016年度～) 新潟県高齢者大学講師 (2017年度)



氏名	カワハラ カズヨシ 河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi
性別	男
生年月日	1969年9月8日
職名	講師 (1999年4月)
連絡方法	E-mail : kawahara@nuis.ac.jp
学歴	1993年 信州大学工学部情報工学科卒業 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
学位	博士 (工学) (信州大学、1998年3月)
職歴	1998年4月～ 1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤研究員
研究分野	画像処理に関する研究。コンピュータビジョンとその応用 (ロボット、AR、VR)、3次元画像作成、コンピュータを用いた教育手法
主要業績	論文 ① 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会論文誌 D- II、Vol.J80-D- II、No.1、pp.166-174 ② 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97), Vol.2, pp.1013-1016 ③ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications, Vol.1 pp.333-334 ④ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium, pp.339-342 ⑤ 「ファジィ理論を用いた画像の特徴抽出」 (単著)、2005年3月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号、pp.169-178 ⑥ 「福祉・介護・健康に関する画像処理の研究 ―視覚のシミュレーション―」 (単著)、2016年4月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、pp.14-22
所属学会	電子情報通信学会 情報処理学会



氏名 中田 豊久 NAKADA Toyohisa
 性別 男
 生年月日 1970年11月5日
 職名 講師 (2008年4月)
 連絡方法 E-mail : nakada@nuis.ac.jp
 学歴 1993年 東京工科大学機械制御工学科卒業
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了
 学位 博士 (知識科学) (北陸先端科学技術大学院大学、2006年3月)
 職歴 1993年 NECロボットエンジニアリング株式会社
 1996年 株式会社日本総研テクノス
 1997年 株式会社ソリトンシステムズ
 2003年 株式会社本田技術研究所
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携研究員

研究分野 ① ユビキタスコンピューティングに関する研究
 ② 社会的ネットワーク分析の応用研究

主要業績

論文

- ① Toyohisa Nakada, "Destination Board System Based on Photographs", Proc. of Knowledge-Based and Intelligent Information and Engineering Systems (KES2010), LNAI Vol.6279, pp.449-456, (2010)
- ② 中田豊久, "画像による行き先掲示板システム", グループウェアとネットワークサービス・ワークショップ2009, pp.75-80, Sep. 17-18, (2009)
- ③ 中田豊久, 加藤義彦, 國藤進, "友人ネットワークの状態遷移図による分析", 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用, Vol.2 No.1 pp-87-97, (2009)
- ④ 中田豊久, 金井秀明, 國藤進: 「スポットライトを用いた屋内での探し物発見支援システム」, 情報処理学会論文誌, Vol.48 No.12, pp.3962-3976 (2007).
- ⑤ Toyohisa Nakada, Yoshihiko Kato, and Susumu Kunifuji: 「A Study on the Dynamics of Friendship Network Formation Using a Directed Network Model」, The 2nd International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS 2007), pp.72-79 (2007).
- ⑥ 中田豊久, 伊藤日出男, 國藤進: 「ベイジアンネットワークを用いた画像解析による同期信号の判別」, 日本知能情報ファジィ学会論文誌, Vol19 No.5, pp.488-498 (2007).
- ⑦ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「Dynamic Book Recommendation Model for Real Bookstores」, In Adjunct Proceedings of The 5th International Conference on Pervasive Computing (Pervasive 2007), pp.53-56 (2007).
- ⑧ 中田豊久, 金井秀明, 國藤進: 「実世界での利用を考慮した図書推薦モデルの提案と評価」, 情報処理学会論文誌, Vol. 48 No. 1, pp.148-162 (2007)s.
- ⑨ 中田豊久, 國藤進: 「個人ホームページからのサブグループ発見手法の提案」, 日本創造学会論文誌, Vol.9, pp.42-59 (2005).
- ⑩ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「A Support System for Finding Lost Objects using Spotlight」, 7th International Conference on Human Computer Interaction with Mobile Devices and Services (MobileHCI 2005), pp.321-322 (2005).

所属学会 情報処理学会 人工知能学会 日本創造学会

国際学部 国際文化学科

臼井 陽一郎

區 建英

越智 敏夫

小山田 紀子

佐々木 寛

澤口 晋一

申 銀珠

アレクサンドル プラーソル

矢口 裕子

吉澤 文寿

安藤 潤

神長 英輔

熊谷 卓

瀬戸 裕之

藤本 直生

小林 伊織

佐藤 若菜

山田 裕史

ジュリアス マルティネス

シンシア スミス

佐藤 泰子





氏名 臼井 陽一郎
性別 男
生年月日 1965年8月10日
職名 教授 (2005年4月)
連絡方法 E-mail : usui@nuis.ac.jp
学歴 1989年 早稲田大学社会科学部卒業
1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
学位 修士 (早稲田大学経済学研究科)、MA by research (リーズ大学法学部)
職歴 1994 ~ 1996年 早稲田大学社会科学部助手
研究分野 EU政治
主要業績 著書

ウスイ ヨウイチロウ

臼井 陽一郎 USUI Yoichiro

男

1965年8月10日

教授 (2005年4月)

E-mail : usui@nuis.ac.jp

1989年 早稲田大学社会科学部卒業

1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

修士 (早稲田大学経済学研究科)、MA by research (リーズ大学法学部)

1994 ~ 1996年 早稲田大学社会科学部助手

EU政治

著書

- ① (共著) 『EUの規範政治：グローバルヨーロッパの理想と現実』 (臼井陽一郎編) ナカニシヤ出版。
- ② (単著) 『環境のEU・規範の政治』 ナカニシヤ出版、2013年。
- ③ (共著) 『紛争と和解の政治学』 (松尾秀哉・臼井陽一郎編著) ナカニシヤ出版、2013年。
- ④ (共著) 『EUの規制力』 (遠藤乾・鈴木一人編著) 日本経済評論社、2012年。
- ⑤ (共著) 『EU環境法』 (庄司克宏編著) 慶應義塾大学出版会、2009年。
- ⑥ (共著) *East Asian Regionalism from a Legal Perspective: Current Features and a Vision for the Future*. Ed. by Tamio Nakamura. London: Routledge, 2009.
- ⑦ (共著) 『東アジア共同体憲章案：実現可能な未来をひらく論議のために』 (中村民雄編著) 昭和堂、2008年。
- ⑧ (共著) 『国際機構』 (庄司克宏編著) 岩波書店、2006年。
- ⑨ (共著) 『EU研究の新地平：前例なき政体への接近』 (中村民雄編著) ミネルヴァ書房、2005年。
- ⑩ (共著) 『アクセス地域研究Ⅱ：先進デモクラシーの再構築』 (小川有美・岩崎正洋編著) 日本経済評論社、2004年。

論文

- ① 「EUの対外行動にみる規範政治の諸相—近隣クロスボーダー協力 (ENI CBC) を事例に」 『グローバル・ガバナンス』 第2号、2015年。
- ② 「EUのマルチレベル・ガバナンス論—その統合理論としての意義の再考」 『国際政治』 第182号、2015年。
- ③ 「EUの持続性戦略と欧州統合の行方」 『日本EU学会年報』 第29号、2009年。
- ④ 'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy : A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration*. Vol.29:5, pp.619-633, December 2007.
- ⑤ 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics.' 『日本EU学会年報』 第26号、2006年。
- ⑥ 'Evolving Environmental Norms in the European Union.' *European Law Journal*. Vol.9:1, 2003.
- ⑦ 「EUの特異性と規範の進化」 『社会科学研究』 (東京大学社会科学研究所) 第54巻・第1号、2003年。

所属学会

UACES (英国EU学会)、EUSA (米国EU学会)、日本EU学会、国際政治学会



氏名	区 建英 OU Jianying
性別	女
生年月日	1955年10月27日
職名	教授 (1998年4月)
連絡方法	E-mail : ou@nuis.ac.jp
学歴	1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業 1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業 (文学修士) 1993年 東京大学大学院博士課程修了
学位	博士 (学術、東京大学、1993年3月)
職歴	1984 ~ 1993年 (中国) 暨南大学歴史学部専任講師 1988 ~ 1995年 学習院大学文学部兼任講師 1993 ~ 1994年 東京大学教養学部客員研究員 1994 ~ 1997年 新潟国際情報大学助教授
研究分野	中国の民主化と多民族社会。中国は発展している新興国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は厳復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバリゼーションにおける中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『福澤諭吉与日本近代化』原著者・丸山真男 (編集・翻訳) (学林出版社、1992年) ②『近代日本と東アジア』(共著) (筑摩書房、1995年) ③『日本立憲政治の形成と変質』(共著) (吉川弘文館、2005年) ④『日本の思想』原著者・丸山真男 (共訳) (生活・読書・新知 三聯書店、2009年) ⑤『自由と国民 厳復の模索』(東京大学出版会、2009年) ⑥『東アジアのナショナリズムと近代』(共著) (大阪大学出版会、2011年) ⑦『東亜的王権与思想』原著者・渡辺浩 (翻訳) (上海古籍出版社、2016年) <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「福澤諭吉研究と丸山真男」(みすず書房 みすず、1992年10月号) ②「励みと悲しみ——近代中国と日本」(岩波書店 世界、1995年3月号) ③「丸山真男における国民国家と永久革命」(歴史学研究会編 歴史学研究、1998年3月号) ④「清末中国の国粹派と明治日本の国粹主義」(ソウル大学校奎章閣国学研究院『韓国文化』41巻、2008年6月号) ⑤「丸山真男と私の中国研究」(東京大学出版会『UP』、2011年4月号) ⑥「厳復 — 国民の自由を探し求めた非主流の思想家」(趙景達等編『東アジアの知識人 I 文明と伝統社会』有志舎、2013年) ⑦「丸山真男思想史學與日本的改革」『思想』第27期、台湾聯經出版公司、2014年12月 ⑧「丸山真男與福澤諭吉思想中的「獨立自尊」與「他者感覺」(臺灣大學人文社會高等研究院『臺灣東亞文明研究學刊』第25期、2016年6月)
所属学会	中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会 アメリカ・American Political Science Association
その他	1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



氏名	オチ トシオ 越智 敏夫 OCHI Toshio
性別	男
生年月日	1961年7月7日
職名	教授（2006年4月）
連絡方法	E-mail : tochi@nuis.ac.jp
学歴	1986年 立教大学法学部卒業 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学
学位	法学修士（慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月）
職歴	1992～1994年 立教大学法学部助手 1994～1996年 シカゴ大学研究員 1996年 新潟国際情報大学専任講師 2002～2003年 ニューヨーク大学研究員
研究分野	現代政治理論、 アメリカ政治論。 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心にした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。
主要業績	著書 ①『現場としての政治学』（共著、日本経済評論社、2007年） ②『東アジア〈共生〉の条件』（共著、世織書房、2006年） ③『現代市民政治論』（共著、世織書房、2003年） ④『講座政治学 第一巻・政治理論』（共著、三嶺書房、1999年） ⑤『グローバル・デモクラシーの政治空間』（共著、東信堂、1997年） 論文 ① “Apocalyptic Memories and Subjective Movements: Differentiation by Political Power in Postwar Japan,” <i>Boundary 2</i> , Summer 2015: Volume 42, Number 3. ② 「ナショナリズムと自己批判性」（立教法学、86号、2012年） ③ 「強制される忠誠：フィランソロピーとリベラル・ナショナリスト」（年報政治学2011- I 政治における忠誠と倫理の理念化、2011年） ④ 「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」（政治思想研究、第7号、2007年） ⑤ “Erasing Memories, Preserving Memories: Political Meanings of Pollution and Antipollution Movements in Cold War Japan,” <i>Journal of Pacific Asia</i> , vol.12, 2005.
所属学会	日本政治学会 日本アメリカ学会 American Political Science Association 政治思想学会



氏名	オヤマダ ノリコ 小山田 紀子 OYAMADA Noriko
性別	女
生年月日	1953年11月27日
職名	教授 (2005年4月)
連絡方法	E-mail : oyamada@nuis.ac.jp
学歴	1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業 1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学
学位	博士 (国際関係学) 津田塾大学、2014年3月
職歴	1987～1989年 日本学術振興会特別研究員 1987～1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師 1992～2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授 (1995年～)
研究分野	マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ (狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国) の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ① バンジャマン・ストラ著『アルジェリアの歴史 — フランス植民地支配・独立戦争・脱植民地化』(共訳) (明石書店、2011年) ② 『アルジェリアを知るための62章』(共著) (明石書店、2009年) ③ 『イスラーム事典』(共著) (岩波書店、2002年) ④ 『マグリブへの招待 — 北アフリカの社会と文化』(共著) (大学図書出版、2008年3月) <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月 ② 「独立戦争前夜のアルジェリアにおける農業構造 — 1950・51年農業セサス分析に基づく試論 —」『国際関係学研究』No.12別冊、1986年3月 ③ 「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月 ④ 「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機” — トルコ政権崩壊の過程に関する — 考察 —」『歴史学研究』第692号、1996年12月 ⑤ 「アルジェリアにおける1863年元老院決議 (土地法) の適用と農村社会の再編 — 植民地行政町村の形成をめぐる —」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月 ⑥ 「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯 (覚書) — フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像 —」『人間と社会 — 知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月 ⑦ 「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月 ⑧ 「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動 住民再編成の政策をめぐる —」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月 ⑨ 「アルジェリア『内戦』の傷跡 — 2005年春の旅から —」津田塾大学『国際関係研究所報』第41号、2006年12月 ⑩ 「Mediterranean Powers and the ‘Algerian Crisis’ at the Beginning of the 19th Century」『上智アジア学』第24号、2006年12月 ⑪ 「人の移動からみるフランス・アンジェリア関係史—脱植民地化と『引揚者』を中心に—」『歴史学研究』No846、2008年10月 ⑫ 「アルジェリアにおける植民地支配の構造と展開—フランスの土地政策と農村社会の変容—津田塾大学、2014年2月 (博士論文) <p>所属学会 日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会</p>



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
学歴

ササキ ヒロシ
佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
男

1966年6月29日

教授（2008年4月）

E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp

1990年 立教大学法学部卒業

1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学

法学修士（中央大学、1993年3月）

1996年～1998年 立教大学法学部助手

1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員（PD）・中央大学法学部兼任講師

2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師

2003年～2008年 同大学准教授

2008年～2009年 カルフォルニア大学バークレー校客員研究員

研究分野

東アジアの平和および安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究

「グローバル・デモクラシー（地球民主主義）」の理論的・実証的研究

主要業績

著書・論文・訳書

- ① 「平和研究の理論的地平 — 21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号（日本平和学会）、1996年6月
- ② 「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題 — D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号（立教大学）、1998年2月
- ③ 「『地球社会』と民主主義原理 — 『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号（立教大学）、2000年4月
- ④ 「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号、2000年8月
- ⑤ 『平和研究 第26号 — 新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）（編著）、2001年11月
- ⑥ 「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号（新潟国際情報大学）、2002年3月
- ⑦ 「世界政治と市民 — 現代コスモポリタニズムの位相」高畠通敏編『現代市民政治論』（世織書房）、2003年2月
- ⑧ 「イラク戦争と『安全保障』概念の基層」古城利明編『世界システムとヨーロッパ』（中央大学出版部）、2005年3月
- ⑨ 『東アジア安全保障の新展開』（明石書店）（共編著）、2005年4月
- ⑩ 「『戦争』を再考する」岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）、2005年5月
- ⑪ 『東アジア〈共生〉の条件』（世織書房）（編著）、2006年3月
- ⑫ 「『平和』と『コミュニティ』 — グローバル化時代の『暴力』を越えて」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ—平和研究の新次元』（明石書店）、2007年9月
- ⑬ 「『新しい戦争』と日本—漂流する『安全保障』」岩崎稔他編『戦後日本スタディーズ③』（紀伊國屋書店）、2008年12月
- ⑭ P.ハースト『戦争と権力』（岩波書店）（単訳）、2009年2月
- ⑮ 「現代の平和主義」千葉眞編『平和の政治思想史（おうふう）』、2009年8月
- ⑯ 『地方自治体の安全保障』（明石書店）（共編著）、2010年8月
- ⑰ 「『グローバル・シティズンシップ』の射程」『立命館法学』第333・334号（立命館大学）、2011年3月
- ⑱ 「政治理論における〈核〉の位置づけに関する若干の考察 — 『3・11』後の政治学のために」『立法法学』第86号（立教大学）、2012年1月 など。

所属学会

日本国際政治学会（将来構想委員、2013年研究大会実行委員長）
日本平和学会（第21期会長） など。



氏名 澤口 晋一
性別 男
生年月日 1959年2月10日
職名 教授 (2005年4月)
連絡方法 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
学歴 1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業
1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
学位 博士 (地理学) 明治大学、2001年3月
職歴 1990～1992年 日本学術振興会特別研究員
1992～1996年 明治大学文学部・国士舘大学文学部非常勤講師
1994～1996年 東海大学文学部非常勤講師
1996年 新潟国際情報大学専任講師

研究分野

①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。
②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。

主要業績

著書

- ①『デジタルブック最新第四紀学 (改訂版)』(分担執筆) 第四紀学会、(2013年)
- ②『図説 日本の山 — 自然が素晴らしい山50選 —』(分担執筆) 朝倉書店、(2012年)
- ③『新旧地形図で見る新潟県の百年 — 明治～平成の変貌 —』(分担執筆) 新潟日報事業社、(2010年)
- ④『南アルプス — 地形と生物 —』(分担執筆) 静岡県、(2010年)
- ⑤『山に学ぶ — 歩いて観て考える山の自然』(編著) 古今書院、(2005年)
- ⑥『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会、(2005年)
- ⑦『百名山の自然学』(分担執筆) 古今書院、(2002年)
- ⑧『第四紀露頭集 — 日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会、1996年)
- ⑨『世界の山々』(分担執筆) (古今書院、1995年)

論文

- ①「新潟砂丘西南端地域における砂丘・砂層地形について」(平成28年度新潟市潟環境研究所研究成果報告書、2017年)
- ②「アラスカ中部イーグルサミットにおける地温と凍上および斜面物質移動の観測」(地学雑誌、120-6.2012年)
- ③「北上川上流域における周氷河インボリューション形成の年代」(季刊地理学 58-4.2007年)
- ④「南アルプス大聖寺平の大型ソリフラクションロープ」増澤弘武編『南アルプスの自然』所収.2007年、静岡県
- ⑤「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen, Svalbard」(Geographical Review of Japan, 77-5.2004年)
- ⑥「北極圏カナダ、エルズミア島 オープロイヤール湾地域における第四紀後期の氷河作用」(駿台史学.123号、2004年)
- ⑦「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」(Cryospheric Studies in Kamchatka II ,1999年)
- ⑧「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌、107-5 1998年)

所属学会
その他

日本地理学会、日本第四紀学会、東北地理学会、東京地学協会
・1990～1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバール諸島調査
・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査
・2001、2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。
・2004年、アラスカ大学フェアバンクス校客員研究員
・2016年～、新潟市潟環境研究所客員研究員



氏名	シン ウンジュ 申 銀珠 SHIN Eunju
性別	女
生年月日	1958年3月4日
職名	教授 (2006年4月)
連絡方法	E-mail : shin@nuis.ac.jp
学歴	韓国外国語大学及び大学院 (修士課程) 修了後、 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了
学位	博士 (人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)
職歴	日本学術振興会外国人特別研究員、 名古屋大学言語文化部非常勤講師 (1998.4 ~ 2001.3)
研究分野	韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。また、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び〈在日文学〉について研究を進めている。
主要業績	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「韓国近代文学の中の日本文学 — 『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として —」 (単著) 『人間文化研究年報』第16号 (お茶の水女子大学、1993.2) ② 「朱耀翰と川路柳虹」 (単著) 『淵叢』第2号 (淵叢の会、1993.3) ③ 「〈朝鮮〉から見た中野重治 — 植民地知識人の自画像を求めて —」 (単著) 『国際日本文学研究集會会議録』第17回 (国文学研究資料館、1994.10) ④ 「韓国における高橋新吉」 (単著) 『国文』第82号 (お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1) ⑤ 「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」 (単著) (韓国語) 『日語日文学研究』第28輯 (韓国日語日文学会、1996.6) ⑥ 「中野重治と韓国プロレタリア文学運動 — 林和、李北満との関係を中心として —」 (単著) 『日本研究』第12号 (韓国外国語大学校日本研究所、1998.2) (韓国語) ⑦ 「日本統治期の韓国人作家と日本語」 (単著) 『日本近代文学』第63集 (日本近代文学会、2000.10) ⑧ 「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』 — 民族・民族問題をめぐって —」 (単著) 『淵叢』第10号 (淵叢の会、2001.8) ⑨ 「中野重治、詩的精神の憤怒の行方 — 〈君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍る〉をめぐって」 (単著) 『国文学』第47巻1号 (學燈社、2002.1) ⑩ 「ソウルの異邦人、その周辺 — 李良枝『由熙』をめぐって —」 (単著) 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第7号 (2004.3) ⑪ 「中野重治と日本の天皇制」 (単著) 『日本近代文学 — 研究と批評4』 (韓国日本近代文学会、2005.10) (韓国語) ⑫ 「朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像」 (単著) 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号、(2006.6) ⑬ 「予感する〈女〉たち — 韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって —」 (単著) 『国文学解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子』 (至文堂、2006.7) <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 玄月『蔭の棲みか』 (文学トンネ、2000.11) (共訳) ② 玄月『悪い噂』 (文学トンネ、2002.11) (共訳) ③ 堀江敏幸『熊の敷石』 (文学トンネ、2005.3) (共訳) ④ 平野啓一郎『滴り落ちる時計たちの波紋』 (文学トンネ、2008.2) (共訳) ⑤ 平野啓一郎『あなたが、いなかった、あなた』 (文学トンネ、2008.9) (共訳)
所属学会	日本近代文学会、朝鮮学会、お茶の水女子大学国語国文学会、韓国日本近代文学会、韓国日本言語文化学会、Association for Asian Studies (AAS)
その他	ソウル大学奎章閣韓国学研究院客員研究員 (2013 ~ 2014)



氏名	アレクサンドル プラーソル Alexander Prasol
性別	男
生年月日	1952年10月26日
職名	教授（2000年4月）
連絡方法	E-mail : prasol@nuis.ac.jp
学歴	1975年 極東国立大学（ロシア）日本語文学科卒業 1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程修了
学位	文学博士（PHD in Linguistics）モスクワ国立大学、1979年12月 歴史博士（Doctor of History）極東国立大学、2005年
職歴	1978～1980年 極東大学東洋学部助手 1980～1985年 同学部専任講師 1985～1991年 同学部助教授 1991～1994年 新潟大学教養部助教授 1994～1999年 新潟大学人文学部助教授
研究分野	大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア人の目で見た日本、日本人の目で見たロシア、両国社会が直面する諸問題を考える。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『日本語会話』（共著）極東大学出版部（ロシア） 1984年、172頁 ②『日本語会話における終助詞』（単著）極東大学出版部 1989年、1999年出版（ロシア）、170頁 ③『日本教育の成立』（8～19世紀）（単著）ダリナウカ出版（ロシア）、2001、391頁 ④「明治時代の教育」（1868-1912）（単著）ダリナウカ出版（ロシア）、2002、358頁 ⑤「自治体外交」市岡政夫著（ロシア語単訳）ダリナウカ出版（ロシア）、2004、300頁 ⑥『日本：時代の相貌－現代社会の伝統とメンタリティー』（単著）ナタリス出版（ロシア）、2008、360頁 ⑦「Modern Japan: Origins of the Mind. Japanese Traditions and Approaches to Contemporary Life.」（単著）World Scientific（Singapore）、2010、352p. ⑧「江戸－東京往復。徳川時代の文化・生活様式・習俗」（単著）モスクワ、アストレリ・コルプス出版（ロシア）、2012、528p. ⑨ 日本教育史（単著）Palmarium Academic（ドイツ）、2014、600p. ⑩ 日本語文型（単著）Vostochnaya Kniga（ロシア）、2014、416p. ⑪ 日本統一。織田信長（単著）Vostochnaya Kniga（ロシア）、2015、431p. ⑫ 日本統一。豊臣秀吉（単著）Vostochnaya Kniga（ロシア）、2016、458p. <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「明治初期教育制度の変遷」（単著）（1868～1871年）本学紀要第5号、2002年 ②「ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して」（単著）本学紀要第10号、2007年 ③「Military-Political Organization and Social Structure of 16th Century Japan」（単著）、Far Eastern Federal University、2013.
所属学会	ヨーロッパ日本研究学会（European Association for Japanese Studies）



氏名 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko
 性別 女
 生年月日 1961年2月22日
 職名 教授 (2011年4月)
 連絡方法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp
 学歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業
 1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了
 1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学
 学位 文学修士 (法政大学、1991年3月)
 職歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)
 受賞歴 1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞
 研究分野 アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)
 主要業績

ヤグチ ユウコ

矢口 裕子 YAGUCHI Yuko

女

1961年2月22日

教授 (2011年4月)

E-mail : yaguti@nuis.ac.jp

1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業

1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学

文学修士 (法政大学、1991年3月)

東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)

1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞

アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)

著書

『東アジア〈共生〉の条件』世織書房、(2006.3) 共著

『憑依する過去—アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』金星堂 (2014.3) 共著

論文

- ① “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)” 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁)、(1992.3)
- ② “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)” 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁)、(1993.3)
- ③ 「Sam Shepard, *Fool for Love* — カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁)、(1994.2)
- ④ 「Sam Shepard, *A Lie of the Mind* — 新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁)、(1996.3)
- ⑤ “The Text That Is the Writer—Anais Nin's Diary” *Anais—An International Journal*. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60), (1998.3)
- ⑥ “The Imaginary Father” *Anais—An International Journal*. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60), (2000.3)
- ⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁)、(2000.6)
- ⑧ 「性/愛の家のスパイ—Henry&Juneから読み直す Anais Nin」日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁)、(2003.10)
- ⑨ “Twittering Machine of Paradise—Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters” *A Cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.1.Sky Blue Press (pp.106-17), (2003.11)
- ⑩ 「アナイス・ニンの娘たち—冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12)、(2004.2)
- ⑪ 「ロマンティック・クィア—草野マサムネ ジェンダー試論」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号 (pp.39-50)、(2005.3)
- ⑫ “A Spy in the House of Sexuality:Rereading Anais Nin through *Henry & June*” *A cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.4. Sky Blue Press (pp.22-34), (2007.3)
- ⑬ 「アナイス・ニンの「ジューナ」—『人工の冬』パリ版から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号 (pp.57-60)、(2007.5)
- ⑭ 「アナイス・ニン『人工の冬』パリ版という旅」『水声通信』第28号 (pp.23-35)、(2009.5)
- ⑮ 「想像の父を求めて—『インセスト』論への前奏曲」『水声通信』第31号 (pp.135-144)、(2009.9)
- ⑯ “Anais Nin's Buried Child : Translator's Afterword to the Japanese Version of *The Winter's Artifice* (the Paris Edition, 1939)” *Nexus : The International Henry Miller Journal* Vol.10 (pp.135-46), (2013.9)
- ⑰ “*Winter of Artifice: An Odyssey—Anais Nin's Lost Work,*” *A Cafe in Space: The Anais Nin Literary Journal*, vol.11 (2014.2). pp.32-40.

所属学会

日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本女性学会、日本ヘンリー・ミラー協会



氏名	ヨシザワ フミトシ
	吉澤 文寿 YOSHIZAWA Fumitoshi
性別	男
生年月日	1969年1月7日
職名	教授 (2011年4月)
連絡方法	E-mail : yosizawa@nuis.ac.jp
学歴	1992年3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程卒業
	1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了
学位	2004年7月 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了
	社会学博士 (一橋大学、2004年7月)
職歴	2000年3月～2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師
	2002年10月～2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化大学・明星大学非常勤講師
	2014年10月～2015年3月 東京大学大学院情報学環客員研究員
	2016年8月～2017年8月 米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校東アジア太平洋研究センター客員研究員
研究分野	朝鮮現代史、日朝関係史。
主要業績	著書
	<ol style="list-style-type: none"> ① 『新装新版』戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐる』クレイン、2015年 (単著) ② 『日韓会談1965 戦後日韓関係の原点を検証する』高文研、2015年 (単著) ③ 『五〇年目の日韓つながり直し：日韓請求権協定から考える』社会評論社、2016年 (編著) ④ 永原陽子編『植民地責任論—脱植民地化の比較史』青木書店、2009年 (共著) ⑤ 国民大学校日本学研究所編『議題で見た韓日会談〔外交文書公開と韓日会談の再照明2〕』ソニン (ソウル)、2010年 (共著) ⑥ 和田春樹ほか編『ベトナム戦争の時代1960—1975年 (岩波講座東アジア近現代通史 第8巻)』岩波書店、2011年 (共著) ⑦ 李鍾元ほか編『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ 脱植民地化編』法政大学出版局、2011年 (共著) ⑧ 西野瑠美子ほか編『「慰安婦」バッシングを越えて「河野談話」と日本の責任』大月書店、2013年 (共著) ⑨ 東北亜歴史財団編『韓日協定50年史の再照明Ⅲ—日帝植民地責任判決と韓日協定体制の再照明—』東北亜歴史財団 (ソウル)、2014年 (共著) ⑩ 安藤正人、吉田裕、久保亨編『歴史学が問う 公文書の管理と情報公開 特定秘密保護法下の課題』大月書店、2015 (共著) ⑪ 木宮正史、李元徳編著『日韓関係史1965—2015 I 政治』東京大学出版会、2015 (共著) ⑫ 李元徳、木宮正史編著『韓日関係史1965—2015 I 政治』歴史空間 (ソウル)、2015 (共著)
	論文・その他
	<ol style="list-style-type: none"> ① 「日本における植民地主義の現在 外国人参政権問題を中心に」(『現代韓国朝鮮研究』10、2010年11月) ② 「日韓会談における「在日韓国人」法的地位交渉 — 国籍・永住許可・退去強制問題を中心に」(『朝鮮史研究会論文集』49、2011年10月) ③ 「日韓請求権協定と戦後補償問題の現在 第2条条文化過程の検証を通して」(『体制移行期の人権回復と正義 [平和研究 第38号]』、2012年4月) ④ 「日韓会談における請求権交渉の再検討—日本政府における議論を中心として—」(『歴史学研究』920、2014年7月) ⑤ 「朴正熙政権期における対日民間請求権補償をめぐる国会論議」(『現代韓国朝鮮研究』15、2015年11月) ⑥ 「総論—これからの日韓関係50年を展望するために」(『歴史評論』788、2015年12月) ⑦ 吉岡吉典『日韓基本条約が置き去りにしたもの 植民地責任と真の友好』大月書店、2014年 (「序文」「解説」を執筆) ⑧ 浅野豊美・長澤裕子・吉澤文寿共編『日韓国交正常化問題資料』現代史料出版、2010年～刊行中
所属学会	歴史学研究会、歴史科学協議会、朝鮮史研究会、日本平和学会、現代韓国朝鮮学会 Association for Asian Studies (AAS)、American Historical Association (AHA) など



氏名	アンドウ ジュン 安藤 潤 ANDO Jun
性別	男
生年月日	1968年3月25日
職名	准教授 (2003年4月)
連絡方法	E-mail : ando@nuis.ac.jp
学歴	1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業 1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了 2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学
学位	学士 (経済学) (早稲田大学、1992年3月) 修士 (経済学) (早稲田大学、1994年3月)
職歴	国土舘大学政経学部・法学部非常勤講師 (2002年4月～2010年3月) ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ現代日本研究所客員研究員 (2010年9月～2010年12月) コーネル大学経済社会研究センター・東アジアプログラム客員研究員 (2011年1月～2011年8月)
研究分野	①研究テーマ：日米防衛支出の実証分析 キーワード：防衛支出、externality effect, 政府支出の代替性・補完性 研究形態：個人研究 ②研究テーマ：アイデンティティと経済行動 キーワード：アイデンティティ経済学、家事分担、ジェンダー・ディスプレイ、オートノミー 研究形態：個人研究
主要業績	著書 ①『経済政策の理論と現実』（共著、2009年2月、学文社、共著者：長谷川啓之、馬場正弘、辻忠博）、担当：「第1章 経済政策の基本問題」（7-25頁）、「第5章 格差問題と政府の役割」（87-111頁）、「第7章 グローバル経済における家計経済」（132-154頁）、「第8章 少子高齢化と政府の役割」（155-175頁） ②『平成不況』（共著、2010年3月、文眞堂、共著者：松本保美、塚原康博、鏑田亨、永富隆司、得田雅章）、担当：「3 近年の消費者行動」（106-126頁） ③『少子・高齢化と日本経済』（共著、2014年9月、文眞堂、共著者：佐川和彦、塚原康博、馬場正弘、松本保美、鏑田亨）、担当：「第3章 少子・高齢化時代における子どもを持つ既婚女性の労働供給と育児支援政策」（54-72頁） ④『アイデンティティ経済学と共稼ぎ夫婦の家事労働行動—理論、実証、政策—』（単著、2017年2月、文眞堂）
所属学会	論文 ① Ando, Jun, 2011, "Identity and Couples' Housework Sharing: Virtual Experiment on Husbands' Gender Display," <i>Japanese Economy</i> , 38(3): 3-29. ② Ando, Jun, 2012-13, "Changes in Dual-Eamer Couples' Housework Behavior: From the Empirical Analysis of Cohort A in the Japan Panel Survey of Consumers (JPSC)," <i>Japanese Economy</i> , 39(4): 3-41. ③ Ando, Jun, 2012-13, "Empirical Analysis of Dual-Earner Couples' Housework Behavior Using the Japanese Version of the General Social Survey (JGSS)-2006 Data," <i>Japanese Economy</i> , 39(4): 42-59. ④ Ando, Jun, 2015, "Social Norms, Gender Identity, and High-Earning Wives' Housework Behavior in Japan: An Identity Economics Framework," <i>Japanese Political Economy</i> , 41(1): 36-51. ⑤ Ando, Jun, 2017, "Externality of Defense Expenditure in the United States: A New Analytical Technique to Overcome Multicollinearity," <i>Defence and Peace Economics</i> , DOI: 10.1080/10242694.2017.1293775. ⑥ 安藤潤, 2017, 「米国における防衛支出の民間投資クラウドディング・アウト効果——四半期データを用いた冷戦期, ポスト冷戦期およびポスト9.11テロ期の比較研究」『新潟国際情報大学国際学部紀要』, No.2, pp.55-71. 日本経済政策学会 (関東部会理事)・行動経済学会・日本家族社会学会



氏名
性別
職名
連絡方法
学歴

カミナガ エイスケ
神長 英輔 KAMINAGA Eisuke

男
准教授 (2010年9月)

E-mail : kaminaga@nuis.ac.jp

1998年 東京大学教養学部教養学科第二卒業
2001年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了
2006年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了
博士 (学術、東京大学、2006年12月)

学歴
職位

1998年8月～1999年8月 サハリン日本センター所長補佐
2001年4月～2004年3月 日本学術振興会特別研究員 (DC1・東京大学)
2004年4月～2007年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD・東京大学)
2005年4月～2012年9月 東京大学教養学部非常勤講師
2007年5月～2008年2月 株式会社ジーニアスエデュケーション常勤講師
2009年4月～2010年3月 青山学院女子短期大学非常勤講師
2009年4月～2010年3月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師
2012年10月～2013年3月 新潟県立大学非常勤講師
2013年4月～2013年9月 東京大学大学院総合文化研究科客員准教授

研究分野
主要業績

東北アジア近現代史、ロシア極東近現代史、日露関係史、現代日本文化研究
著書

- ① 『「北洋」の誕生 場と人と物語』 成文社、2014年 (単著)
- ② 中村喜和他編 『異郷に生きる VI 来日ロシア人の足跡』 成文社、2016年 (共著)
- ③ 谷垣真理子、塩出浩和、容應英編 『変容する華南と華人ネットワークの現在』 風響社、2014年 (共著)
- ④ 中嶋毅編 『新史料で読むロシア史』 山川出版社、2013年 (共著)
- ⑤ 原暉之編 『日露戦争とサハリン島』 北海道大学出版会、2011年 (共著)
- ⑥ 中村喜和他編 『異郷に生きる V 来日ロシア人の足跡』 成文社、2010年 (共著)

論文

- ① Сахалинская морская капуста и купец Я. Л. Семёнов: Из истории международной торговли морской капустой в северо-восточной Азии (конец XIX – середина XX в.) // Сахалинская область: история, современность, перспективы. Материалы международной научно-практической конференции. Под ред. А. С. Ломова, Правительства Сахалинская области, Сахалинского государственного университета. Южно-Сахалинск, 2012. С. 42-45.
- ② 「コンブの道 サハリン島と中華世界」『ロシア史研究』第88号、2011年5月、64-78頁
- ③ "Maritime History and Imperiology: Japan's Northern Fisheries and the Priamur Governor-Generalship" in Matsuzato Kimitaka, ed., *Imperiology: From Empirical Knowledge to Discussing the Russian Empire*, Sapporo, 2007, pp.259-273 (Slavic Research Center, Hokkaido University)
- ④ 「プリアムール総督府管内における漁業規制と漁業振興1884-1903」『ロシア史研究』第73号、2003年10月、37-54頁
- ⑤ 「北東アジアにおける近代捕鯨業の黎明」『スラヴ研究』第49号、2002年、51-79頁
- ⑥ 「露米会社と捕鯨業」『ロシア史研究』第69号、2001年10月、2-15頁

所属学会

歴史学研究会、ロシア史研究会、サハリン・樺太史研究会、近現代東北アジア地域史研究会



氏名 熊谷 卓 KUMAGAI Taku
 性別 男
 生年月日 1969年1月25日
 職名 准教授 (2004年4月)
 連絡方法 E-mail : takuk@nuis.ac.jp
 学歴 1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業
 2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学
 法学修士 (広島大学、1994年3月)
 学職 1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師
 1997年～1999年 広島大学法学部助手
 1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師
 2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師
 2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

研究分野 国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを経験の研究のテーマとしている。

主要業績

クマガイ タク

熊谷 卓 KUMAGAI Taku

男

1969年1月25日

准教授 (2004年4月)

E-mail : takuk@nuis.ac.jp

1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業

2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学

法学修士 (広島大学、1994年3月)

1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師

1997年～1999年 広島大学法学部助手

1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師

2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師

2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを経験の研究のテーマとしている。

著書

①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著) (不磨書房、2002年)

論文

- ①「欧州連合 (EU) と国際テロリズム」1997年2月『広島法学』20巻3号 203-235頁。
- ②「犯罪人引渡と国際テロリズム—フランス共和国の立法および判例から」1998年2月『広島法学』21巻3号 95-133頁。
- ③「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」1999年2月 1999年3月『広島法学』22巻3号 37-60頁 22巻4号 117-138頁。
- ④「国家テロリズムと国際法—ロッカビー事件を手がかりとして」2002年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』5号 115-154頁。
- ⑤「誰がテロリストを裁くのか?—合衆国軍事委員会と国際人権法—」2003年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』6号 87-101頁。
- ⑥「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否—グアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から」2004年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』7号 119-159頁。
- ⑦「判例紹介 対テロ戦争と人権—グアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断」2005年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』8号 119-133頁。
- ⑧「対テロ戦争と国際人権法—グアンタナモの被拘束者に対する市民的および政治的権利に関する国際規約 (自由権規約) の適用可能性—」2005年12月『広島法学』29巻2号 81-116頁。
- ⑨「テロリズムを契機とする国家の国際法上の責任に関する序論的考察」2008年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』11号 15-29頁。
- ⑩「テロリズムと人権—テロ被疑者の処遇を素材として—」2009年8月『国際法外交雑誌』108巻2号 91-119頁。
- ⑪「テロとは何か — 国連包括的テロ防止条約における『テロリズム』の位置づけ —」2010年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』13号 63-70頁。
- ⑫「国際人権法と死刑」『法律時報』82巻7号 (日本評論社、2010年6月) 48-52頁。
- ⑬「『対テロ戦争』へのジュネーヴ諸条約の適用—ハムダン事件」『国際法判例百選 (第2版)』(有斐閣、2011年)。
- ⑭「国際テロリズムと条約の役割 — 引渡または訴追の規定を中心に —」2013年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』16号 65-80頁。
- ⑮「判例研究 イラン人に対するの国立大学附置研入学不許可違憲訴訟 [東京地裁平成23.12.19判決]」2013年6月『季刊教育法』(エイデル研究所) 第177号100-106頁。
- ⑯「テロリズムと国際人道法の関係に関する—考察 (戦争と平和の法的構想)」2013年10月『平和研究』(日本平和学会) 73-101頁。

所属学会

世界法学会・国際法学会・米国国際法学会



氏性 名
生 年 月 日
職 年 月 日
連 年 月 日
学 年 月 日

セト ヒロユキ
瀬戸 裕之 SETO Hiroyuki
男

1970年5月25日

准教授

E-mail : setohiro@nuis.ac.jp

1994年3月 新潟大学法学部 卒業

1996年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士前期課程修了

1998年10月～2001年8月 ラオス国立大学法律政治学部 (留学)

2005年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士後期課程満期退学

学 位
職 歴

博士 (学術) (名古屋大学, 2009年3月)

2004年4月～2010年3月 愛知淑徳大学非常勤講師

2005年10月～2009年3月 愛知県立大学非常勤講師

2005年4月～2010年3月 岐阜市立女子短期大学非常勤講師

2006年4月～2010年9月 名古屋外国語大学非常勤講師

2008年4月～2008年9月 名古屋大学非常勤講師

2009年4月～2010年3月 名城大学非常勤講師

2010年9月～2012年3月 京都大学東南アジア研究所機関研究員

2011年4月～2013年8月 立命館大学非常勤講師

2012年4月～2013年8月 京都大学東南アジア研究所研究員

2012年4月～2013年8月 京都大学非常勤講師

2012年4月～2013年8月 愛知県立大学非常勤講師

2013年4月～2013年8月 龍谷大学非常勤講師

2013年8月～2015年9月 名古屋大学大学院法学研究科特任講師 (ラオス・日本法教育研究センター勤務; 在ラオス)

2015年10月～2016年8月 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院・特任准教授 (法学; ラオスサテライトキャンパス事務所勤務), ラオス・日本法教育研究センター講師 (法研究) を兼任

2016年4月～2016年8月 名古屋大学ラオス海外事務所長を兼任

受 賞 歴
研 究 分 野
主 要 業 績

2016年7月 ジェトロ・アジア経済研究所第37回「発展途上国研究奨励賞」受賞
国際関係論, 比較政治学, 東南アジア地域研究 (ラオス地域研究)

論文

① 瀬戸裕之. 2016. 「1991年憲法制定前におけるラオス地方議会法制の変遷－1988年地方人民議会選挙とその帰結を中心に－」『アジア法研究』第9号, 241-260頁.

② 瀬戸裕之. 2015. 『現代ラオスの中央地方関係－県知事制を通じたラオス人民革命党の地方支配－』京都大学学術出版会.

③ 瀬戸裕之. 2014. 「ラオスの中央集権化と地方分権化に関する一考察－ヴィエンチャン県の開発と治安のバランス－」鈴木基義編著『ラオスの開発課題』JICAラオス事務所, 331-366頁.

④ 河野泰之, 横山智, 田中耕司, 瀬戸裕之. 2011. 『現代ラオス社会・環境の変化と継続性－2011年8月のインタビュー記録』Kyoto Working Papers on Area Studies, No. 122, 京都大学東南アジア研究所.

⑤ 瀬戸裕之. 2010. 「ラオス人留学生の協力による法整備支援ワークショップ」『ICD NEWS』No.44, 法務省法務総合研究所国際協力部, 35-53頁.

⑥ 瀬戸裕之. 2008. 「ラオスの中央地方関係における県知事および県党委員会の権限に関する一考察－ヴィエンチャン県工業局の事業形成過程を中心に－」『東南アジア研究』46号 (1), 京都大学東南アジア研究所, 62-100頁.

⑦ 瀬戸裕之. 2007. 「2003年憲法改正によるラオス司法制度改革－裁判所制度の変更を中心に－」杉浦一孝編『法整備支援と司法改革』2001年度～2005年度科学研究費補助金「アジア法整備支援－体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」研究成果報告書第7巻, 31-103頁.

⑧ 瀬戸裕之. 2006. 「ラオスにおける法整備支援－現状と課題－」鮎京正訓編『開発援助としての法整備支援』2001年度～2005年度科学研究費補助金「アジア法整備支援－体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」研究成果報告書第1巻, 75-111頁.

⑨ 瀬戸裕之. 2005. 「ラオスの政治制度改革における部門別管理に関する一考察－ヴィエンチャン県財務部の人事管理を中心に－」天川直子・山田紀彦編『ラオス 一党支配体制化の市場経済化』研究双書No.545, アジア経済研究所, 71-114頁.

⑩ 瀬戸裕之. 2005. 「ラオス1991年憲法体制における県党・行政制度に関する一考察－ヴィエンチャン県を事例に－」『国際開発研究フォーラム』第28号, 名古屋大学大学院国際開発研究科, 181-199頁.

⑪ 瀬戸裕之. 2002. 「ラオスにおける法学教育 (『ICD NEWS』No.4, 法務省法務総合研究所国際協力部, 34-61頁.

所 属 学 会

国際開発学会, 東南アジア学会, 比較法学会, アジア政経学会, 国際政治学会, アジア法学会, 「社会体制と法」研究会

そ の 他

JICA「ラオス国法律人材育成強化プロジェクト」アドバイザーグループメンバー



氏名
性別
生年月日
職歴
連絡方法

フジモト ナオキ
藤本 直生 Naoki Fujimoto-Adamson
女

1967年11月11日
准教授 (2014年9月)

E-mail : fujimoto@nuis.ac.jp

1991年3月 日本大学文理学部文学専攻 (英文学) (通信教育課程) 卒業
1997年3月 玉川大学文学部教育学科小学校コース (通信教育課程) 修了
1999年9月 University of Essex, UK, Department of Language and Linguistics, MA in English Language Teaching 修了

2011年1月 University of Leicester, UK, School of Education, Doctor of Education (Ed. D.) in Applied Linguistics and TESOL 満期退学

学位
職歴

2000年4月 M.A. in English Language Teaching (ELT)

2012年7月 Master of Education (M.Ed.) in Applied Linguistics & TESOL

1991年4月-1998年3月 長野県公立中学校英語教員

2001年10月-2002年3月 University of Leicester, UK, Language Centre 日本語講師

2002年4月-2009年3月 諏訪東京理科大学共通教育センター 非常勤講師

2002年4月-2009年3月 信州豊南短期大学言語コミュニケーション学科 非常勤講師

2009年4月-2013年3月 新潟県立大学セルフ・アクセス・センター 学習指導員

2014年4月-2014年9月 新潟県立大学国際地域学部 非常勤講師

2014年4月-2015年3月 新潟中央短期大学幼児教育学科 非常勤講師

研究分野
主要業績

応用言語学、社会言語学、英語教育

論文

- ① 2003年3月 "Policy and Practice of the Partnership in the Team-teaching Classroom: Ideology and Reality", Bulletin of Shinshu Honan Junior College, Vol. 20, pp. 143-169, Shinshu Honan College, Tatsuno-Town, Japan.
- ② 2004年6月 "Localizing Team-teaching Research", Asian EFL Journal, Vol. 6, (2), pp. 1-16.
- ③ 2005年3月 "A Comparison of the Roles of Two Teachers in a Team-teaching Classroom in a Japanese Junior High School", The Journal of Asia TEFL, Vol.2, No. 1, pp. 75-101. Korea.
- ④ 2005年12月 "Comparing Team-teaching Studies to Formulate an Appropriate Research Methodology", JACET Chubu Journal, Volume 3, pp. 37-57. Nisshin-City, Japan.
- ⑤ 2006年9月 "Globalization and History of English Education in Japan", Asian EFL Journal Conference Proceedings, Vol. 8, Issue 3, pp. 259-282. Article 13.
- ⑥ 2009年3月 "Comparison of Qualitative and Quantitative Approaches to Classroom-Based Team-Teaching Research", Bulletin of Shinshu Honan Junior College, Vol. 26, pp. 15-48, Shinshu Honan College, Tatsuno-Town, Japan.
- ⑦ 2010年6月 "Voices from Team-Teaching Classrooms: A Case Study in Junior High School in Japan", Business Communication Quarterly, Vol. 73 (2), pp. 200-205. USA.
- ⑧ 2010年11月 "Co-construction and Understanding of Self-Access through Conversational Narrative", SiSAL (Studies in Self Access learning), 1 (3), pp. 173-188, in collaboration with Adamson, J. L., and Brown, H.
- ⑨ 2011年6月 "Archiving Self Access: Methodological Considerations", Asian EFL Journal, 13 (2), pp. 11-33, in collaboration with Adamson, J. L., & Brown, H.
- ⑩ 2012年3月 "Revealing Shifts and Diversity in Understanding of Self Access Language of Learning", Journal of University Teaching and Learning Practice, 9(1), 1-16. University of Wollongong, Australia, in collaboration with Adamson, J. L., & Brown, H.
- ⑪ 2012年3月 "Translanguaging in Self-Access Language Advising: Informing Language Policy", SiSAL, 3(1), pp. 59-73. Conference Proceedings of Advising for Language Learner Autonomy at Kanda University of International Studies, 12th November, 2011, in collaboration with Adamson, J. L.
- ⑫ 2015年2月 "'I was in their shoes': Shifting Perceptions of Editorial Roles and Responsibilities", The Journal of the English Scholars Beyond Borders (ESBB), 1(1), pp. 109-142, in collaboration with Adamson, J. L.
- ⑬ 2016年2月 "Sustaining Reviewing Quality: Induction, Mentoring, and Community", ESBB, 2(1), pp. 29-57, in collaboration with Adamson, J. L.

所属学会

Asian EFL Journal
The Journal of Asia TEFL
English Scholar Beyond Border
Japan Association for Language Teaching



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

コバヤシ イオリ
小林 伊織 Peter Iori Kobayashi
男
1973年2月19日
講師 (2015年9月)
Email : iorik@nuis.ac.jp
2009年6月 Ph.D. Candidate in English Language and Literature, Ateneo de Manila University, Philippines
2000年6月 M.A. in East Asian Studies, National Chengchi University, Taiwan
1995年7月 B.A. (Hons) in South East Asian Studies, University of Hull, U.K.
M.A. in East Asian Studies

学位
学歴

2003年2月—2015年7月：銘伝大学（台湾）英語センター専任講師
2002年9月—2003年6月：台北ヨーロッパ・スクール国際バカロレア日本文学教師
1998年9月—2002年9月：台湾TVBS（無線衛星電視台）国際ニュースセンター記者

研究分野
主要業績

World Englishes; English as a Lingua Franca; Language Policy and Planning
著書
English in Taiwan In *The Handbook of Asian Englishes*. Eds. Kingsley Bolton and Andrew Kirkpatrick. Hoboken: Wiley (Forthcoming)

論文

- ① “American English as an International Language” ; Taiwanese views on English, from an EIL/ELF perspective. In *Proceedings for 2012 International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics*. Taipei: Crane (2012)
- ② Display of Malaysian English in Shirley Geok-Lin Lim’s *Sister Swing*. In *Proceedings for 2009 Internβ Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics*. Taipei: Crane (2009)
- ③ “They speak ‘incorrect’ English” : Understanding Taiwanese learners’ views on L2 varieties of English. *Philippine Journal of Linguistics Vol. 39, No. 1* (2008)
- ④ Expanding Circle learners in the Outer Circle: Understanding Taiwanese learners’ views on L2 varieties of English. In *2008 International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics*. Taipei: Crane (2008)
- ⑤ Historicizing the spread of English in Taiwan: Focus on pre-retrocession era. The 18th Conference of the International Association for World Englishes. Guangzhou, China (2012)
- ⑥ “American English as a Lingua Franca” : Taiwanese students’ attitudes towards English, from an ELF perspective. The Fourth International Conference of English as a Lingua Franca. Hong Kong (2011)
- ⑦ Taiwanese students’ attitudes towards English: From a World Englishes perspective. The 16th Annual Conference of the International Association for World Englishes. Vancouver, Canada (2010)
- ⑧ Taiwanese gatekeepers’ views on English in relation to its worldwide spread. The 15th Conference of the International Association of World Englishes. Cebu, Philippines (2009)
- ⑨ “English only please, if you can!” Teachers’ resistance towards Taiwan’s language planning in university classrooms. The 14th Conference of the International Association of World Englishes. Hong Kong. (2008)
- ⑩ English as an International Language, taught by Filipino teachers: A phonological comparison. The 2007 International Conference and Workshop on International Education: The Prospect of International Education in the 21st Century. Taoyuan, Taiwan (2007)

所属学会

International Association of World Englishes (IAWE)
The Japanese Association for Asian Englishes (JAF AE)
The Japan Association for Language Teaching (JALT), Bilingualism SIG



氏名	サトウ ワカナ 佐藤 若菜 SATO Wakana
性別	女
生年月日	1983年2月4日
職名	講師 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : wsato@nuis.ac.jp
学歴	2004年9月～2005年6月 国立台湾大学 大学間協定交換留学 2005年7月～8月 国立台湾海洋大学 留学 2007年3月 東北大学農学部生物生産学科海洋生物科学系 卒業 2009年3月～2011年5月 貴州大学西南少数民族語言文化研究所 留学 2016年1月 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程 (5年一貫制) 博士課程修了・博士学位取得
学位	博士 (地域研究、京都大学、2016年1月)
学歴	2013年4月～2015年3月 日本学術振興会特別研究員 (DC2・京都大学) 2016年2月～2016年3月 京都大学東南アジア研究所連携研究員
受賞歴	第11回日本文化人類学会奨励賞 受賞 (2016年5月)
研究分野	文化人類学、モノ研究、親族研究。現代中国における少数民族の民族衣装を介した社会関係に関する研究。
主要業績	<ol style="list-style-type: none"> ① Sympathetic Relationships between Miao Mothers and Daughters as Mediated by Ethnic Costumes: Case Studies from Guizhou Province, China. <i>Déjà Lu</i>. 2017. 2. ② 「身体とともにある食事：中国貴州省農村部の事例から」『Vesta：食文化のひろば』第102号：25-26. 2016年4月. ③ 『中国貴州省ミャオ族における民族衣装がつなぐ母娘関係の動態：女性のライフコースと社会経済的变化に着目して』博士論文. 2016年1月. ④ 「衣装がつなぐ母娘の『共感的』関係：中国貴州省のミャオ族における実家・婚家間の移動とその変容」『文化人類学』第79巻3号：305-327. 2014年12月. (2016年第11回日本文化人類学会奨励賞受賞論文) ⑤ Transference of women and Miao's ethnic costumes between the natal and marital families in Guizhou province, China. <i>Proceedings of JSPS Asian Core Program Final Workshop Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century</i>: 105-112. 2014. 3. ⑥ 「中国の農村における暮らし：貴州省の村で」『歴史地理教育』第807号 (増刊号)：8, 77-81. 2013年7月. ⑦ 書評「鈴木正崇. 2012. 『ミャオ族の歴史と文化の動態—中国南部山地民の想像力の変容』風響社」『東南アジア研究』第50-2号：14-17. 2013年1月. ⑧ 「高速鉄道建設が中国貴州省の農村に与えた影響について」『アジア・アフリカ地域研究』第12-1号：126-130. 2012年9月. ⑨ 「貴州省東南部ミャオ族社会における服飾に関する研究—女性による服飾製作と刺繍技術の継承—」『研究と実務を架橋するフィールドスクール：社会に貢献するアジア・アフリカ地域専門家の養成コース：平成20～22年度実施報告書集』, 9-11. 2011年3月. ⑩ 「中国西南部におけるミャオ族の刺繍継承に関する研究」『実践的地域研究：魅力ある大学院教育イニシアティブ・臨地教育研究による実践的地域研究者の養成：平成18～19年度フィールドワーク・インターンシップ実施報告書集』, 29-30. 2008年8月.
所属学会	日本文化人類学会、民族藝術学会
その他	2011年7月～2012年9月 株式会社資生堂 受託研究者 2016年4月～ 京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

ヤマダ ヒロシ
山田 裕史 YAMADA Hiroshi
男
1977年12月28日
講師 (2015年9月)
E-mail : hyamada@nuis.ac.jp
2000年3月 関西外国語大学外国語学部英米語学科卒業
2005年3月 上智大学大学院外国語学研究科国際関係論専攻博士前期課程修了
2008年3月 上智大学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程満期退学
博士 (地域研究) (上智大学、2011年9月)
2008年4月～2011年3月 上智大学アジア文化研究所特別研究員 (PD)
2008年4月～現在 桜美林大学非常勤講師
2008年10月～2011年3月 東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障プログラム」(HSP) 特任研究員
2011年4月～2014年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD・東京大学)
2012年4月～現在 上智大学非常勤講師
2012年4月～2012年9月、2014年4月～2014年9月 津田塾大学非常勤講師
2014年10月～2015年3月 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構持続的平和研究センター特任研究員
秋野豊ユーラシア基金「第7回秋野豊賞」受賞 (2005年6月)
カンボジア研究、国際協力論

受賞歴
研究分野
主要業績

- ① 「人民党一党支配体制下のカンボジア議会の役割：反対勢力の取り込み・分断による体制維持」『アジア研ワールド・トレンド』No.245, 2016年, 18-21頁.
 - ② 「カンボジアのNGO法制」『シナジー』Vol. 167, 2016年, 18-19頁.
 - ③ 「カンボジアの平和構築における市民社会の役割：懸念されるNGO法の影響」Asia Peacebuilding Initiativesウェブサイト (<http://peacebuilding.asia/civil-society-peace-building-cambodia-ja/>), 2016年.
 - ④ 「カンボジア人民党による体制維持戦略：議会を通じた反対勢力の取り込み・分断と選挙への影響」山田紀彦編『独裁体制における議会と正当性—中国、ベトナム、ラオス、カンボジア—』研究双書, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2015年, 141-176頁.
 - ⑤ 「カンボジア人民党による国民議会の掌握過程」山田紀彦編『一党支配体制下の議会：中国、ベトナム、ラオス、カンボジアの事例から』日本貿易振興機構アジア経済研究所2013年度調査研究報告書, 2014年.
 - ⑥ 「変革を迫られる人民党一党支配体制」『アジア研ワールド・トレンド』No.219, 2013年, 4-7頁.
 - ⑦ 「第5期国民議会指導部とフン・セン新内閣の顔ぶれ」『アジア研ワールド・トレンド』No.219, 2013年, 8-10頁.
 - ⑧ 「内戦後のカンボジアにおける平和構築：国軍改革を中心に」伊東孝之監修、広瀬佳一・湯浅剛編『平和構築へのアプローチ：ユーラシア紛争研究の最前線』吉田書店, 2013年, 279-299頁.
 - ⑨ 「ひと」が平和をつくる：カンボジア和平交渉における日本の積極外交」福武慎太郎・堀場明子編著『現場〈フィールド〉からの平和構築論：アジア地域の紛争と日本の和平関与』勁草書房, 2013年, 19-43頁.
 - ⑩ 岩波書店辞典編集部編『岩波 世界人名大辞典』共著, 2013年.
 - ⑪ 「ボル・ポト政権後のカンボジアにおける国家建設：人民党支配体制の確立と変容」上智大学外国語学研究科博士論文, 2011年.
 - ⑫ 「1993年体制下のカンボジアにおける開発と政治」小林知編『市場経済化以後のカンボジア：経済活動の多面的な展開をめぐる』Kyoto Working Papers on Area Studies No. 115 (G-COE Series 113), 2011年, 67-84頁.
 - ⑬ 「カンボジア人民党の特質とその変容 (1979～2008年)」上智大学アジア文化研究所Monograph Series No. 4, 2009年.
 - ⑭ 「カンボジア」広瀬佳一・小笠原高雪・上杉勇司編著『ユーラシアの紛争と平和』明石書店, 2008年, 51-66頁.
 - ⑮ 「パリ和平協定後のカンボジアにおける「民主化」の再検討」岸川毅・中野晃一共編『グローバルな規範／ローカルな政治：民主主義のゆくえ』上智大学出版, 2008年, 127-159頁.
 - ⑯ 「民主化支援の逆説：カンボジアにおける国際選挙監視を事例に」金敬黙・福武慎太郎・多田透・山田裕史編著『国際協力NGOのフロンティア：次世代の研究と実践のために』明石書店, 2007年, 147-177頁.
- 東南アジア学会、日本平和学会、日本比較政治学会、日本国際政治学会
カンボジア市民フォーラム事務局長 (2008年1月～現在)、特定非営利活動法人新潟国際ボランティアセンター (NVC) 運営委員 (2016年5月～現在)

所属学会
その他



氏名	ジュリアス マルティネス Julius C. Martinez
性別	男
生年月日	1980年3月3日
職歴	契約講師 (CEP) (2016年4月) E-mail : jcm@nuis.ac.jp 2003 University of the East, Philippines Bachelor of Secondary Education Major in English 2009 Ateneo de Manila University, Philippines MA in English Language and Literature Teaching 2013-current University of the Philippines PhD in Language Education MA in English Language and Literature Teaching 2009 Ateneo de Manila University MA in English Language and Literature Teaching Pearson Education South Asia, Indonesia, Consultant (2015-2016) Saint John's School, Indonesia, Faculty (2015-2016) University of the Philippines, Lecturer (2013-2015) Ateneo de Manila University, Philippines, Instructor (2013-2015) Saint John's School, Indonesia, Consultant (2013-2015) Saint John's School, Indonesia, Faculty & International Examinations Coordinator (2007-2013) Malayan High School of Science, Philippines, Faculty (2005-2007) Saint Mary's Academy, Philippines, Faculty (2003-2005)
学位	University Scholar, 1st semester, SY 2013-2014 University of the Philippines College of Education Best Paper, 1st Education Graduate Conference, 5 October 2013 University of the Philippines College of Education Travel Grant, Amazing Minds 2013 Conference, Bali Indonesia Pearson Education South Asia Hong Kong Travel Grant, Amazing Minds 2012 Conference, Danang, Vietnam Pearson Education South Asia Hong Kong First Place, Research Presentation Competition 2011 Pearson Education South Asia Hong Kong First Place, Classroom Action Research Competition 2010 Lembaga Bahasa & Pendidikan Profesional LIA Jakarta, Indonesia
受賞歴	Lingua franca Language awareness Critical pedagogy
研究分野	① Martinez, J. (2017). English language education in Japan, Indonesia and the philippines. NUIS Journal (forthcoming) ② Martinez, J. (2015). Orchestrating a Pedagogy of Negotiated Voice in Writing. ACELT Forum, 9, 2-8 ③ Martinez, J. (2014). Quality in ELT Action Research. CAR Journal, 7 (1), 1-6. ④ Martinez, J. (2014). Cross-Fertilizing Original and Simplified Literary Texts. ACELT Forum, 8 (1). ⑤ Martinez, J. (2012). Who's Afraid of Classroom Action Research? CAR Journal, 5 (1), 3-8. ⑥ Martinez, J. (2010). Stepping in, Stepping up: A Tale of Empowering the Agents of Innovation. SEAMEO- Australia Press Award. Retrieved from http://www.seameo.org/images/stories/Programmes_Projects/Press_Award/2010/Articles/04- A-tale-of-empowering-agents-of-education.pdf . ⑦ Martinez, J. (2009). Using Simplified Literary Texts in the English Language Classroom. In Selected Proceedings of the 2nd RAFIL International Conference on East-West Encounters. Yogyakarta: Universitas Sanata Dharma. 283-312.
主要業績	
所属学会	* Member, Asia Teachers of English as a Foreign Language (Asia TEFL) * Member, Teachers of English as a Foreign Language in Indonesia (TEFLIN) * Member, Japan Association for Language Teaching (JALT)



	氏名	シンシア スミス Cynthia Smith
	性別	女
	生年月日	1972年12月12日
	職名	契約講師 (CEP) (2016年5月)
	連絡方法	E-mail : smith@nuis.ac.jp
	学歴	M.A. TESOL Anaheim University, 2012 B.A. Latin American Studies, Smith College, 1994
	学位	M.A. in TESOL
	職歴	AIR College, Instructor, 2015-2016; Niigata City Board of Education, Assistant Language Instructor, 2013-2014; Instructor, Portland State University (USA), 2011-2013; Niigata City Board of Education, Assistant Language Instructor, 2004-2011; GEOS Language Systems, Instructor and Area Liaison to Head Office, 1997-2004
	受賞歴	Award for Academic Excellence, Anaheim University, 2012
	研究分野	Bilingualism; Error Correction
	主要業績	① Smith, C. (2016). The Shy Bilingual. <i>Bilingual Japan</i> , 25(2), 16-19. ② C. Smith, Forthcoming, Book chapter "Coping With Homework : Expatriate Mothers' Experiences with their Children's School work in Japan" in "Long-term Expatriate Family Experiences of Education", Eds. M. Cook & L. Kittaka, Springer ③ 2013.7 新潟市教育委員会日本人教員研修 講師 ④ 2013.1 新潟県主催・文部科学省共催 Skills Development Conference 発表: Correcting student errors ⑤ 2010.1 新潟県教育委員会主催、文部科学省共催 年中学会 発表: Cultural issues facing female ALTs
	所属学会	・ Member, Japan Association of Language Teachers (JALT) ・ Executive Board Member, Niigata JALT ・ Member, JALT Bilingualism Special Interest Group



氏名	サトウ ヤスコ 佐藤 泰子 SATO Yasuko
性別	女
生年月日	1964年6月29日
職名	契約講師（英語基礎）（2014年4月）
連絡方法	E-mail : ysato@nuis.ac.jp
学歴	1993年 CENTRAL WASHINGTON UNIVERSITY Graduate Study of Master of Arts – English: Teaching English of Second Language / Teaching English of Foreign Language (TESL/TEFL英語教授法専攻) 修士課程修了
学位	Master of Arts (文学修士号取得)
職歴	中学校教諭1種免許状・高等学校教諭1種免許状(英語)取得 1992年 Central Washington University 大学付属 ESL研究助手 1993年～1995年 東京家政大学国際交流センター職員 1995年～1999年 同短期大学部国際コミュニケーション科助手 2001年～2008年 同上 家政学部非常勤講師 2008年～2014年 同上 大学人文学部・家政学部非常勤講師 2009年～2013年 東京国際大学言語コミュニケーション学部非常勤講師 2012年～2014年 新潟国際情報大学情報文化学科非常勤講師
研究分野	英語教授法 (TEFL/TESL)、通訳・翻訳理論&研究、教育学、観光英語 ① 研究テーマ：eラーニングを活用した英語教育を1年基礎科目で実践中。 キーワード：MOOC/MOODLE/CAT ② 研究テーマ：集中英語コースにて通訳・翻訳理論を導入したreading & writingを実践中。 キーワード：QR-response / Sight translation & interpretation / Retention / Summarization ③ 研究テーマ：観光や旅行業に必要な英語の運用能力。地元新潟から世界へ。地元を巻き込んだ「おもてなし」に必要な英語力について研究。 キーワード：通訳案内士/Goodwill Guide/Tourism English
主要業績	① 研究ノート An Analysis of Effectiveness of TOEIC Practice with Computer Adaptive Testing (u-CAT) as a Web-Based CALL System 新潟国際情報大学 国際学部紀要 2015年7月 ② 「Introduction to Essay Writing – A Step-By-Step Course from Paragraph to Essayエッセイライティング入門」 Jann Huizenga著 佐藤泰子他編訳 松柏社 2011年 ③ A Collaborative Work in Writing Classes Taught Abroad: Speculation on the Effectiveness of Peer-Response Group Work in Japan 東京家政大学人文・社会科学系紀要 1996年
所属学会	Teachers of English to Speakers of Other Languages, Inc. (TESOL) The Japan Association for Interpreting and Translation Studies (JAITS) 日本通訳翻訳学会 Japan Society for Educational Technology (JSET) 日本教育工学会 The Japan Association for Language Education and Technology (LET) 外国語教育メディア学会
社会貢献	平成26年新潟市シティプロモーション認定事業「留学生とともに発信！食と郷土文化を学ぶ岩室温泉ツアー企画事業」－「IWAMURO」を英語で、一緒にLet's おもてなし！新潟初バイリンガルなまちあるきガイドへの道 2014年9月24日～ 通訳ガイドとして運営委員メンバー

新潟国際情報大学研究者総覧 2017

2017年4月 発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市西区みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690